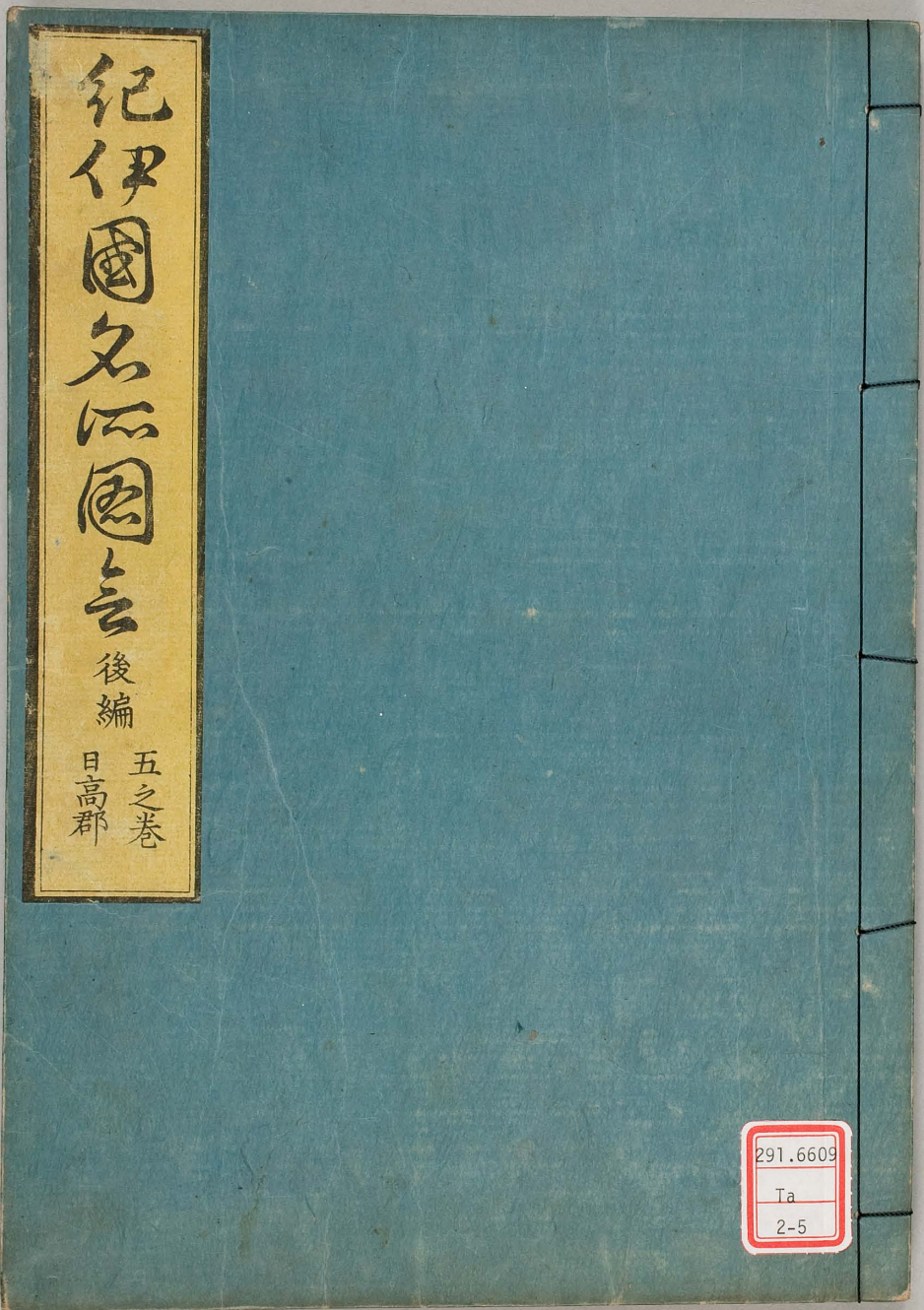
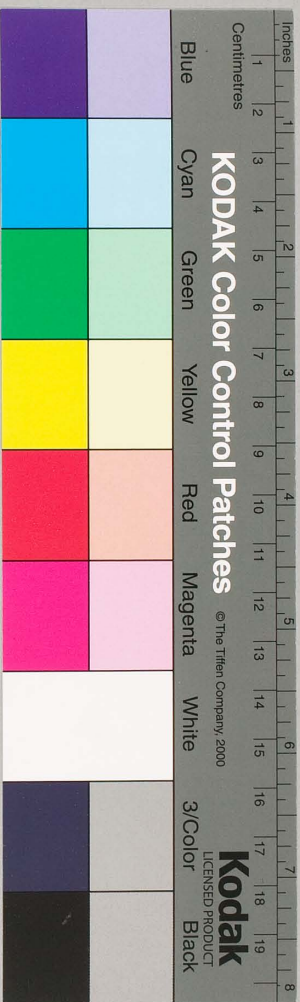




0362



紀伊國名所圖志

後編

五之卷
日高郡

291.6609
Ta
2-5



紀傳名所圖會後編卷之五

目錄

日高別荘 高
原谷驛 高
古城址 高
東光寺 高
萩原 高
大東宮 高
鳳生寺 高
九品寺 高
湯川略傳 高
王子權現 高
富士政氏坂石 高
古郷名 高
御所谷 高
内畑王子 高
高家王子 高
八幡宮 高
西園寺 高
古墳 高
法林寺 高
湯川氏司 高
放生院 高
三尾莊 高
高家莊 高
鎌樹王子 高
内原御 高
法華寺 高
淨尊寺 高
富安莊 高
道成寺道 高
湯川氏校石 高
志賀莊 高
徳宇行着園 高
宮杭 高
小峠 高
馬面王子 高
内原直 高
安樂寺 高
若宮 高
富安王子 高
小原驛 高
龜古坂 高
一王子 高
三皇社 高
小浦湊 高

喜多八重子氏寄贈

御靈宮
若一王子
中々磯
光徳寺
御侍洞
風早
小池左
和田松原
入山古城址
王子社
園莊
所坊
千津川

常燈臺
比升城蹟
産湯井
津突
かみ石
龍王社
御城社
王子社
女郎墓
清光院
新宮文書
矢田莊
雲津山王子

甲山
大將軍社
榕樹
御系三石
美保浦
海上取嶋
智浦
群一王子
賊部莊
春日江
園八幡宮
折線後出圖
八幡宮

比升湊
又郎殿松
白鷺明神
日御崎
三保席
雷明神社
二尾山
財部
吾州寺焼
奇寺
公平章
くま王子

瀧巻
古徳沼
別室
江川谷
丹生社
分れ城址
山神土地
冷川
洞瀧
朝日社
芳澤わの園
下愛徳社
大瀧

道成寺
桜大樹
八幡宮
兵幡宮
山王社
玉皇氏故居
玄子川
船津社
観音寺
鳴瀧
長文幡宮
建保縁起
寒川

鬼瓦圖
安城塚
寶篋印塔
真妻社
生蓮寺
城ヶ段
早蕨社
雄山
船津
矢舌嶽
師子社
寒川莊
手早瀧

縁起
清姫塚
川上莊
眞妻山
大峰山
大山神社
信業寺
喬麦
黒嶋瀧
鶴川瀧
神場湯泉
上愛徳社
丹生神社

鶴が城
 龍神温泉
 川鳥
 湯野
 茶屋
 園場
 龍神造園
 野垣内
 龍神寺
 復興壇
 城森
 津炎嶽
 水乞鳥
 伏久間橋
 栗研坂

日高
 當郡立田の南にありて南に八幡と界一東に

飯高
 横田本紀大寶三年此條小飯高と書きり飯高此

氷高
 同書小天平寶字八年此條小氷高と書きり

右御名
 和名御小森なる當郡内原城の清水石割

高家莊
 立田の南にありて南に八幡と界一東に

小森
 平谷村より分れて森

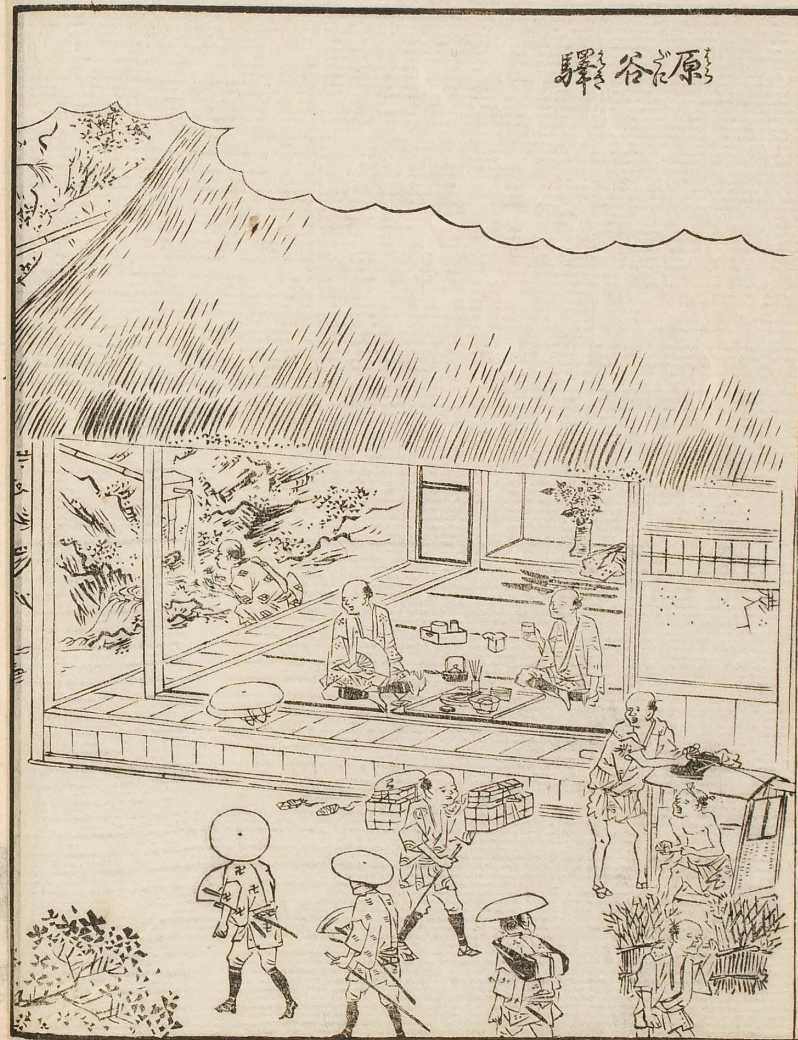
原谷驛
 在田の河津村より一里半原谷山の麓谷の内北より来りて

御所谷
 平谷村の良光二二町原谷山の西にあり

十日
 又私同儲之豐休息山中食於此野上下伐木枝隨

分造植付神枝持参内ノハタノ王子
 童子云云各結付之云

鍵掛王子社
 森山の麓小森より平谷紀子原谷山を



○馬留王子社 系宮村の古名

○古跡址 系宮村の内中紀二ヶ所不詳一ヶ所崎山

○内畑王子社 系宮村の古名内畑の古名也今此社古名不詳一ヶ所崎山

○内原郷 和名抄板本内原とあり厚々原の深かり此郷今廢せしといふも

系宮村の里社及隣村社委長の據札本取政所内系宮村の村中
人あり又内ハタといふ地名あり系宮村の里社及隣村社委長の據札本取政所内系宮村の村中
内系は後裔といふ也

内原直牟羅 此地の人ナリト云内系直牟羅氏縁未定難姓云

天平實字八年丁未先是從二位父室真人淨三等奏曰伏奉去年十二月十日紀寺奴益人等訴云紀袁祁臣之女親賣嫁本國水高評人内原直牟羅生兒身賣拍賣二人蒙急則臣處分居住寺家造工等食後至庚寅編戸之歲三細校數名爲奴婢因斯久時告愍分雪無由空歷多年于今屈滯

幸屬天朝照臨寓内披陳鬱結伏望正名者 中於是益麻

呂等十二人賜姓紀朝臣真玉女等五十九人内原直即

以益麻呂爲戸頭編附京戸云云

天平五年九月六日畧同日符壹通 熊谷團兵士紀抄原直忍熊意宇團兵士

○東光寺 系宮村の古名小寺一ヶ所系宮村の古名也

○高家王子社 小名東光寺小寺一ヶ所系宮村の古名也

○高亮維盛 高亮維盛をうけつて系宮村の古名也

○高亮王子 高亮王子を伏ねみ日板形等

○法華寺 系宮村の古名

○安樂寺 系宮村の古名

○萩原 内畑如比面小寺一ヶ所系宮村の古名也

萩原



新千載集

定家

萩原

中へよと

野をよみ

うほりゆ

あけふ

あけふ月

按ふふ所幸記切目

王子所舎の條

聖徳太子の額

ありて秋文なりと思

らふは秋なり



御奉記云

次出此木原又過野荻薄遙靡眺望甚幽此夕より月あり

云此所共有便事但未尋得

枕草紙

新緑古今集春曙抄小八を抄を引て幸ふ

秋系やあけはれ風吹く月夜とぬる月如頼法師

八幡宮同村小

浄専寺同村小

若宮神主前本村の西堀小ありて一村の長老計りて人れ侍らむ

大森宮前乃林を記る

西寺同村小ありて浄土宗を祀ふ

富安荘富安村の東ありて

富安王子社下富安村にありて

次又参王子田藤次

風生寺同村の内地をよみ

右墳上富安村の西にあり

道成寺道富安王子社の前にあり

小松系驛系谷驛より二里あり

御宿御奉記云

十日畧

次寄小松原御宿御好邊四宿之處已無之國沙

汰以成敗厭之假屋之少之間無縁者不入其負占小宅

立簡之慶内有家入押入宿了不可出之由忿怒云云國

小松原宿



自然齋句集

うげき

あや

木さうれ

小松原

宗後



汰汰之人又非我進止之由後干云云只依入涯分偏頗
歟不迨相論又非可入身此御所自水練便宜臨深淵構
御所即打過遙尋宿所

○淨土山安養院九品寺

同村小江

當寺縁起小江の村字に僧當寺に草創せしといはれり

よつて大々敷敷せしを寺号當寺に足るべしとて慶長年

中湊合に僧寶慈光寺奉治の附地にて淨土宗を唱へし

了歸依する者多く遂に當寺を中興して淨土宗に寺を

よつてし末寺に十箇寺中の一なり

常樂記云

康曆二年三月十八日了賢房妻室於紀州小松原宿他界

熊野下向於

九品寺茶毘

○法林寺

同村小江に淨土宗塔西流より湯川直光に起りて之男

○湯川氏故居

同村の乾田園に中江より近世に比して鬼瓦并木板

○龜山古跡

官道より西に方々起りて丸山村の中安ありふりりれり丸山と

坂を越る事三丁許りて上平なり寺旁一丁をわたりふりりれり丸山の村

を以て三丁比と通ふなり

○湯川氏傳

湯川氏の改春生先春三子より改春生名傳と改春川実記或は改春

と又此の地をきき事なり

湯川氏々其先甲斐源氏武田家より出づ元祖を慕ふ三郎

伝忠といふ

実記より三郎といふはもと武田家より伝忠三郎父祐高下紀州

いりて多々次郎と母を同じふ三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

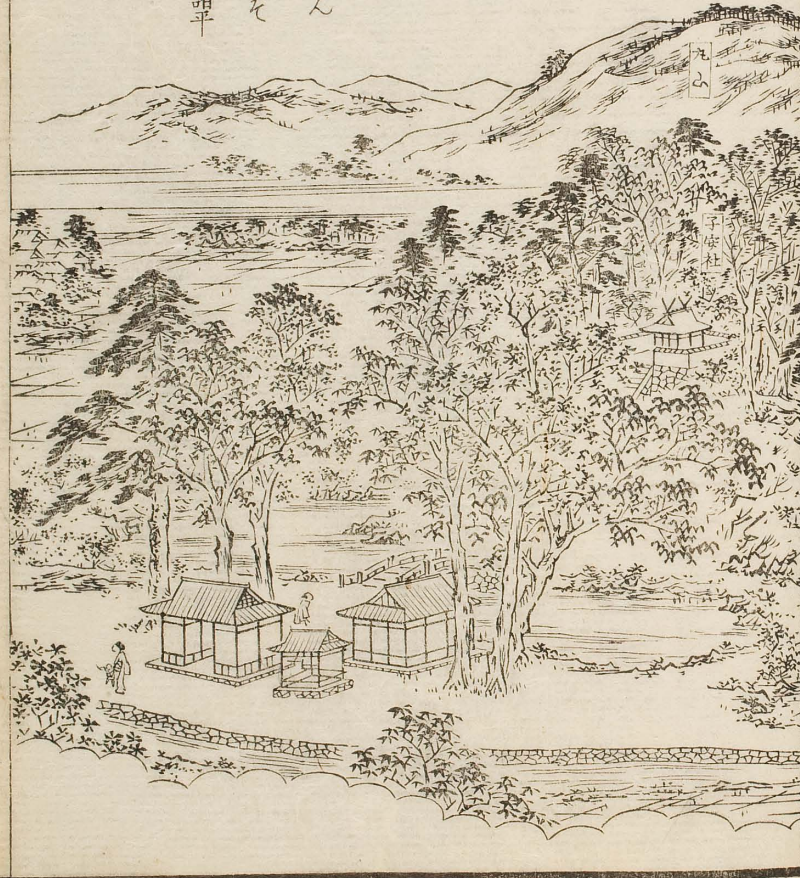
しりて二弟と小江より三郎と母を同じふ其頃木高より吉國の守備被

湯川氏
古城跡
の圖

木
九



あまの
大徳の
山田も
わらわ
加納諸平



日一々れを乞ふ又世縁あり又後を疎利記小面亭大納言の言と安藝入江佐
奉の事とむ時々武田系國に方定傳ふて幸國河川氏よりあけりぬ
りりり永禄年中中河川安藝入江宗夢といふ人あれども信義と人
りり又紀伊武田系とつゝあれども三郎信忠名をくす信大
氏に傳ふ武田 弘安に頃あやあて人罪ありて然野湯川
小遠流せらる河川村といふ 其頃弘安小兒賊きて山中
伐横に一客をふ次事とつゝとも暇に空あり
ゆゑを以て官兵も捕ふる然もゆゑなり其小三郎
楊丹を伐の力を擡て 後小三郎を 岩神作して遂に
其儀を祈るゝ其切小より 勅勤を免され 弘安
案郡を賜ふぬ是より芳貴の内梅といふ所小居佐次
芳貴といふ年 三郎れ子某 武田系ふく信忠れ子
を其郎信忠と書せり 其子を強き
郎といふ 武田系ふく信忠れ子
を其郎信忠と書せり 其子を強き
然野八尾司れ其一人あり軍功に賞ふよりを四日
二部をも併せ領し幸國に族氏とありてふ小城と

いふ孫を郎より入世系其外といふ浮僧を請ふて
鳳中寺を建川 家安村 永正十九年小死す 永正元年造
小湯川中勢少輔といふ 其子政を宮内女輔小政を連致り
爵して宗祚を師友と 居地は後小嘉辰堂を建て
連致れを城させるといふ 今田地に小政れを成を嘉辰堂
十六年小率次政妻れ子を忠光といふ民部少輔小政
永禄年中富山高政が前軍を帥めて二好実保と戦ひ
河内國教妻をれ陣小政死す忠光の子を忠光といふ
忠光武田系ふく身を忠光といふと 中勢少輔と稱し又此村を襲
豊臣本國征伐の時嘉後重津等といふとも忠光を
あを拒み其女甥玉置氏を味方小振人といふ玉置氏
を次直春怒て其兵二百餘人を以て和修れ城を占めと圍て
是を攻む玉置氏等て湯淺れ白根氏石垣に神保氏と共

小寺は急やをを圍ふ告ぐ連妻又兵ををてて各撰
兵ををつて岡仙石権兵衛尾後久重をを惣登小を
海濱小進む連妻諸將を小松系小系めて戦を逐次
流將浮城して決せざる内小系軍海濱を掩ひてふ
久連妻流戦の術を失ひ居城小火を掛市焚死状と
なり若光伯城小を復純神の城小を入一が徳田
云郎左衛門が名を帝に死を報じられ城小死を山中小
快くとて近寄云郎が腹を傷み仙石氏軍減迫
あ小進めんと次連妻士卒を率て塩見坪小出て是城
沿ふ山沿ふ谷漸く山路小熟く隊志たられ
れやく解了熟れどくもて奮戦せしる系軍死傷乃
もれ等をあらば遂に回迎れ城小引退る兵ををちて一
徹城を圍む城之山率之招迎を出て下川小移り系軍是

を追ふ山率氏河治屋川を瀬に親橋を築ち湯川の軍
兵と大兵力を合せて是を沿ぐあ津おるもある一日係
り系軍山谷沿城して遂に自由なる小若く逆小和
睦志る旋子翌年太閤れ命小依て市願を安堵し其族
三百人を平河和別郎山の城小系親次山率之招是小悦
ひあ長小得せんとされども数日許り次別七月十二日
連妻を旅舎小毒殺し其招を沿宮小殺す其母を招
招して殉死せしむるも此多し後右系逆もをて栗山
三郎と大系兵を率めて伯城を攻めてを圍ふも
所此松若氏を斬て先君れを惣人として城を襲ふ
ことども克むるも戦死す此小於て湯川氏滅せし
る勝むべし然れども其族流率ふ及び各團小らうて
或々士とあり或々農とありて今小家名を傳る

又々其感あふ時麾下の士と与ふる所其感快乃類
 又々其感あふ時麾下の士と与ふる所其感快乃類
 威を致さる所小足も今其中に花押を奉て
 小出次

養
 直

湯川湯川 太平記卷九 元年 湯川実記より 湯川実記より 湯川実記より

國大書云

正平七年五月十一日及晚彼是云八幡官軍堅敗北歟
 畧 熊野湯河庄司此間顯能卿專一官軍也而率二百騎

許勢降参奥州顯陣 太平記 南帝八幡御選を此陣と云はるを我以於
 以外 湯河庄司と云ふ事 今猶小か 太平記は是文小

太平記南方蜂起

然勢小湯川此庄司が軍方小と云ふ所が瀬邊坂乃
 湯小陣を収て河瀬河入道官傳が城を責めん
 河瀬河入道山平判官回邊別當二子條騎中て押寄に角
 八方へ追放一三百二十二人此首を収て回邊に宿めを
 たりける若湯川庄司が宿此亦小作者幸瀬此庄司と書て
 美くこれ鴨氏小と云ふは此川を於小入て何の名もせ次
 同小云は秋湯川を袖此皮小比喩したるは又精進要類



述中行者
 二条のとれ
 中秋の月
 ふむひて
 初てをふ
 を唱る
 そろ



人といふ或付法人然清志て自筆其名号を不_レ勒
—此野小橋—小奇瑞河と云ふて其河に
て人を害むと云ふ風澤池など小名多_レ碑を建て妖氣
を法も原小ふれ意現河其後奥別へ出んといふ要
該出されども法人の帰依甚し記小ふるをすうぐ
萩原村小名事三年小及ぶて更とて又海部郡塩津
浦或を立田那須谷村傾れ山中岩村の城小昔は
後手折別掃尾寺小飛湯とて—文化九〇 藩
より更とて名草那和佐山小草庵小移て此小名事
三年更小又東柳小類く 官より小石川一河院を移ハ
てて—小卑湯—道風堂とて—文化元々十月
六日高橋小古—むるあく念佛堂唱れとてたり淹
然—て終を—とて其後原より傳記小移て此

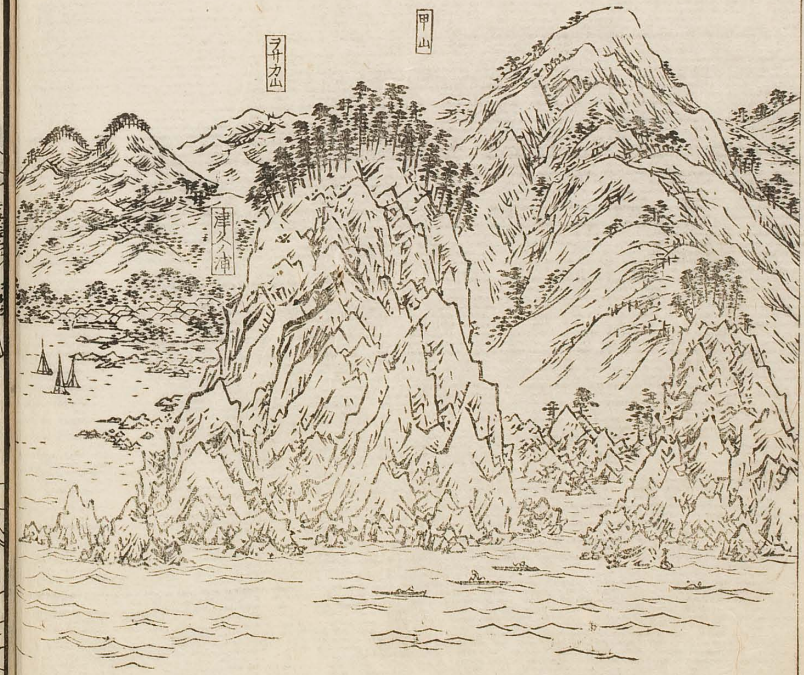
小略次抄の者此は徳近世鑑林小移ありて其
更まふ老幼のあはく増れを兼ひ増れ盡小つ
かぬ東西小名を延順—念佛堂名れ—改番乃
鑑小移ありて—か—とて其後奇特れ—と
とも給くと人口小略次今も其本名を云ふれ其
垂小移ありて—一派の法流を傳へ—と

伏羲神農黃帝社 上志賀村のむかあて延をある小祠あり村中
川次々三帝の像を刻くを油と—記あり

因小の續日本紀云延暦十年斷伊勢云紀伊等國百姓
殺牛用祭漢神と見え—とて類聚三代格小
を記すれ祠小—當社二宮と記し—とて—と延
好事れ者の所為小—て紀小見えたる比類や—と
傳へ—

畠山政成故居 中志賀村小祠に政成元和の頃小城と比并れ海辺小類ひ城
首及敷多れ故をを記し—とて—と延好事れ者の所為小—と

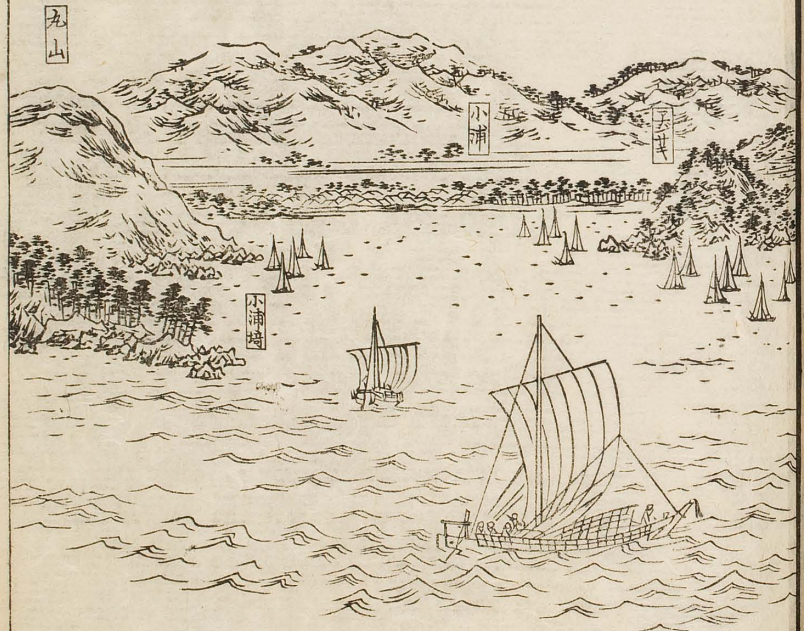
小浦
つくろ
津久浦



甲山

乙山

津久浦



乙山

小浦

小浦

九山

比井浦

磯ちかく

こゝろかき

あはれいふ

ふりやま

あゝん

かきむ

よきなり

大平



カラコ

田井



若王子社藏土器各三箇の圖

經をもとて奥寫をてきよくに載し



保元三年戊午十月廿三日記大檀那比丘尼尊者

勸進信阿

執筆僧光照

時中主
加三徳大

此の土器の模をこれにうつし、名も、形も、山に、底、里、村、通、恩、も、小、乳、葬、一、つ、つ、存、主、
淨、因、と、野、一、為、一、碑、を、樹、し、難、事、戦、功、を、表、す、一、碑、今、於、エ、ト、ノ、芝、と、い、ふ、存、主、
次、故、氏、の、戦、死、を、哀、み、元、元、と、い、ふ、月、晦、日、あり、子、孫、
氏、を、忘、れ、と、い、ふ、今、於、於、於、小、乳、一、つ、つ、存、主、
氏、を、忘、れ、と、い、ふ、今、於、於、於、小、乳、一、つ、つ、存、主、

三尾莊

志賀庄北西海辺小乳一つ、九ヶ村を、
比井庄河尾の村、二村、
比井庄河尾の村、二村、
比井庄河尾の村、二村、

方抗

由良港の入口、
石堀、
石堀、

小浦

方抗と、
二村、
二村、

沖電宮

日村、
日村、

常燈臺

日村、
日村、

甲山

比井庄、
比井庄、

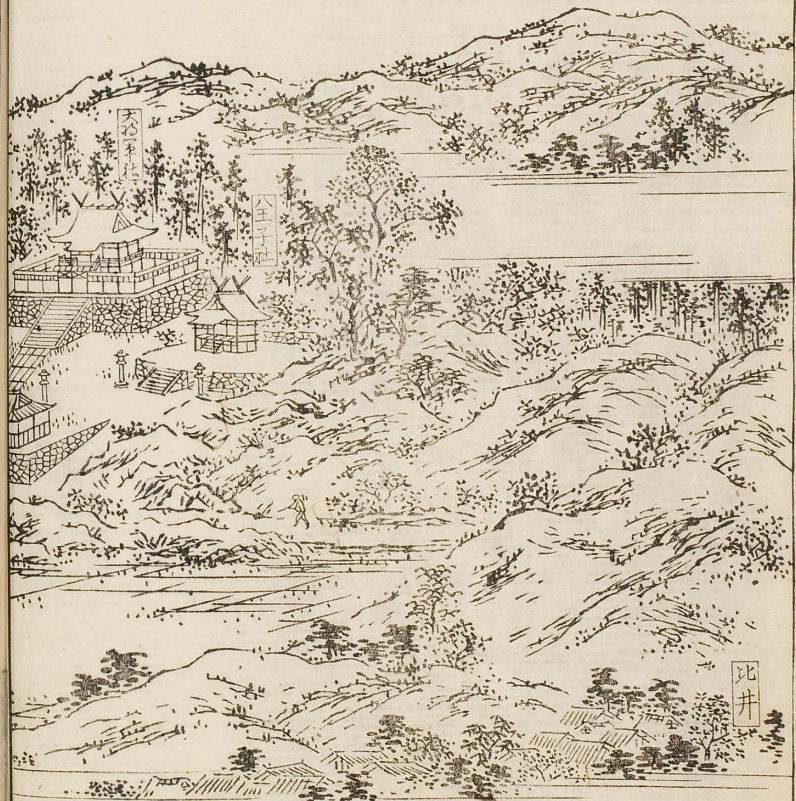
比井

比井庄、
比井庄、

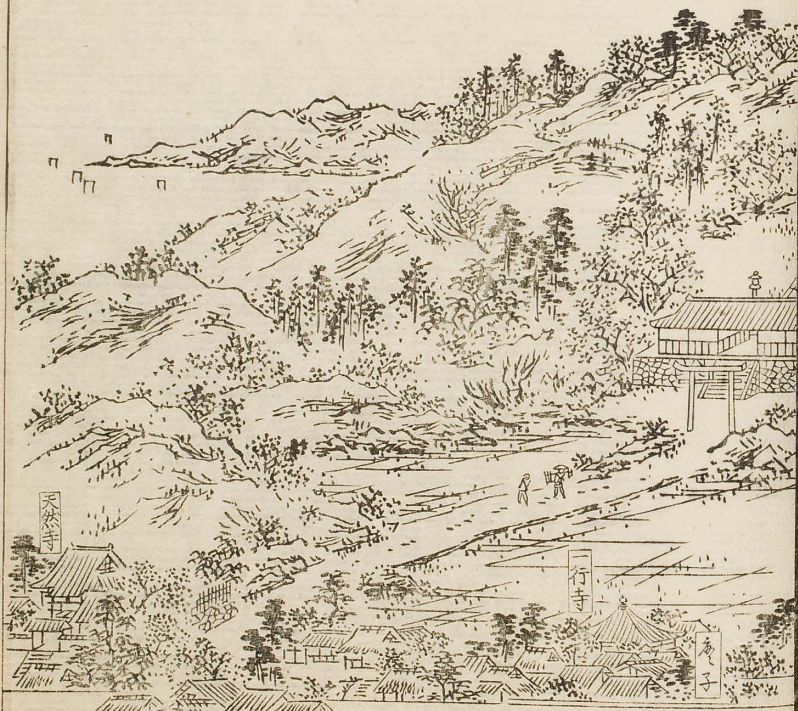
比井

比井庄、
比井庄、

唐子浦
大將軍社

[illegible]

けの帳の
うこふて
うめ
あは
肅亭
昨昨



第一王子社

四浦小町に才古忍尊より、鐵海より、八雲唐七未社修禪の時
境内ありて古を出土し、小才小町より、此箇より、此箇に法華
經八卷を納む、又古小保元三

比井神社

四村比井小上より、
改元十月廿二日云々、
比井神社、
比井神社、
比井神社、

大將軍社

比井神社、
比井神社、
比井神社、
比井神社、
比井神社、

中郎殿

比井神社、
比井神社、
比井神社、
比井神社、
比井神社、

古老傳云

古老傳云、古武内宿禰、皇子を守護して、日高小来れ、
こと、此井泉を以て、皇子を守護して、日高小来れ、
こと、此井泉を以て、皇子を守護して、日高小来れ、

今小玉

今小玉、皇子を守護して、日高小来れ、
今小玉、皇子を守護して、日高小来れ、
今小玉、皇子を守護して、日高小来れ、

一又當

一又當、皇子を守護して、日高小来れ、
一又當、皇子を守護して、日高小来れ、
一又當、皇子を守護して、日高小来れ、

家小水

家小水、皇子を守護して、日高小来れ、
家小水、皇子を守護して、日高小来れ、
家小水、皇子を守護して、日高小来れ、

湯

湯、皇子を守護して、日高小来れ、
湯、皇子を守護して、日高小来れ、
湯、皇子を守護して、日高小来れ、

櫓樹

櫓樹、皇子を守護して、日高小来れ、
櫓樹、皇子を守護して、日高小来れ、
櫓樹、皇子を守護して、日高小来れ、

此樹

此樹、皇子を守護して、日高小来れ、
此樹、皇子を守護して、日高小来れ、
此樹、皇子を守護して、日高小来れ、

生原

生原、皇子を守護して、日高小来れ、
生原、皇子を守護して、日高小来れ、
生原、皇子を守護して、日高小来れ、

紋

紋、皇子を守護して、日高小来れ、
紋、皇子を守護して、日高小来れ、
紋、皇子を守護して、日高小来れ、

定め

定め、皇子を守護して、日高小来れ、
定め、皇子を守護して、日高小来れ、
定め、皇子を守護して、日高小来れ、

吉く

吉く、皇子を守護して、日高小来れ、
吉く、皇子を守護して、日高小来れ、
吉く、皇子を守護して、日高小来れ、

もれ

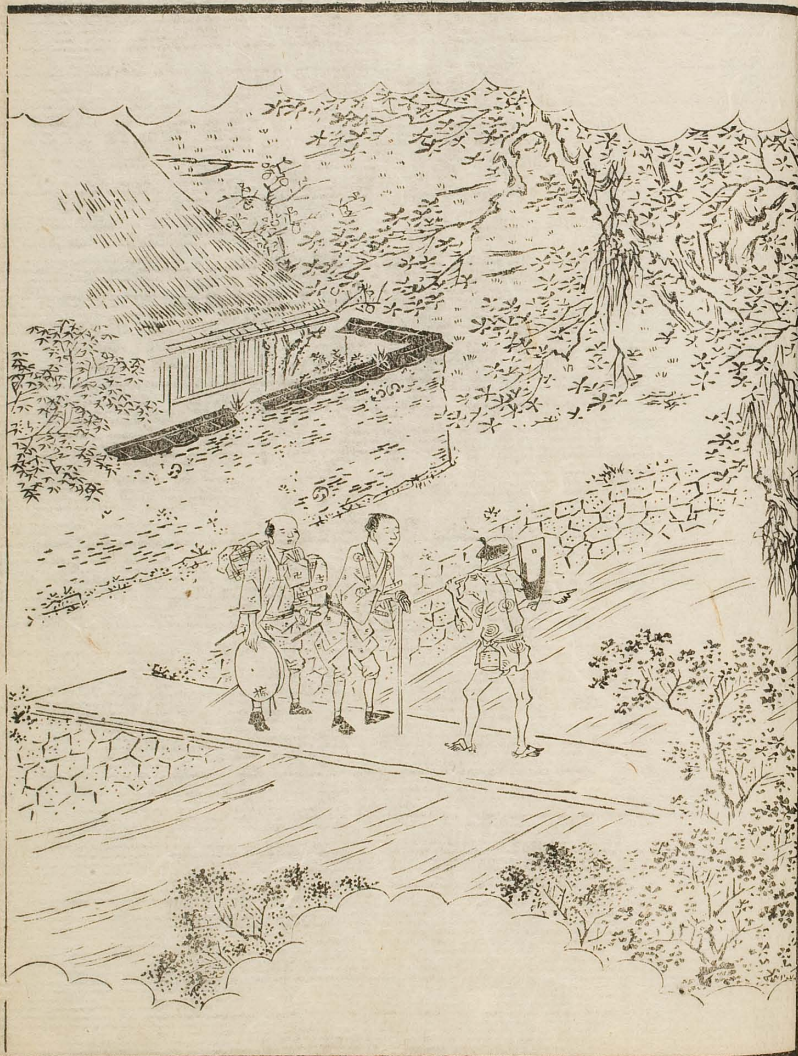
もれ、皇子を守護して、日高小来れ、
もれ、皇子を守護して、日高小来れ、
もれ、皇子を守護して、日高小来れ、

下枝

下枝、皇子を守護して、日高小来れ、
下枝、皇子を守護して、日高小来れ、
下枝、皇子を守護して、日高小来れ、

産湯井
榕樹

菅田天皇の御産湯
ふ用なりといふ清水
のもとも根幹鐵乃
やく枝葉扶疎じて
立る榕樹の枝といふ
糸の如き嫩條や
なまこ奇状實と
なりといふ散木
とて世用に充たされ
律に匠石の斧と
免るるを澤



戲小兒之細小伐てあをを弄次日又天より長き者
を敷丈小なる其枝霖雨中小を地小挿小く振
をせ次其幹大なる者々其中窓竅小くく質脆
く木々材とあり次とつ小樹くけむる多園を才ホギタ
とつ味受りて妻ありこれ樹蔭摩めく方言アカウ
つひて海邊変く小産とつ小率別小てをいふこれ海濱の
小浪とて其餘他別小産とつをさう次劉恂が嶺表錄
異小榕樹挂廣容南府郭之内多栽此樹乘如冬青秋冬不凋
枝條既繁葉又蒙細
而根鬚纏繞枝幹屈盤上生嫩條如藤垂下漸及地藤梢入土
根節成一大榕樹三五處有根者又橫枝者鄰樹則連理南人
以為常不謂之瑞木とつ小品字雙小榕惟生閩中福州尤盛故踰榕
城とつ小嶺南雜記小榕樹閩廣最多他省則無故紅梅驛以
此無榕とつ小以上小原氏
筆記摘要先年近村の者漂流して福州
小多とて小實小嶺南雜記小書ありとつ小試樹

火氣小弱とつ小氷出て薪とあり次又伐小あり
次諸小ありとれを儲小和を煮ぐ小多ふれとありて其
化用やとれを研散本ありれ小近々伐て擲とれ
多

白鬚神主

河尾浦小あり河尾と名付と日ト樹形小

海光光德寺

月浦小あり浄土ま宗西流あり寺傳小製材中小金藏寺と

北小逃る村民等磯の岩穴小區次う教日ありて教中小和を教せむ寺浦と

神安

月浦小あり西小とて出を磯山樹林蕭蕭とありて下を神安とつ小村功會后

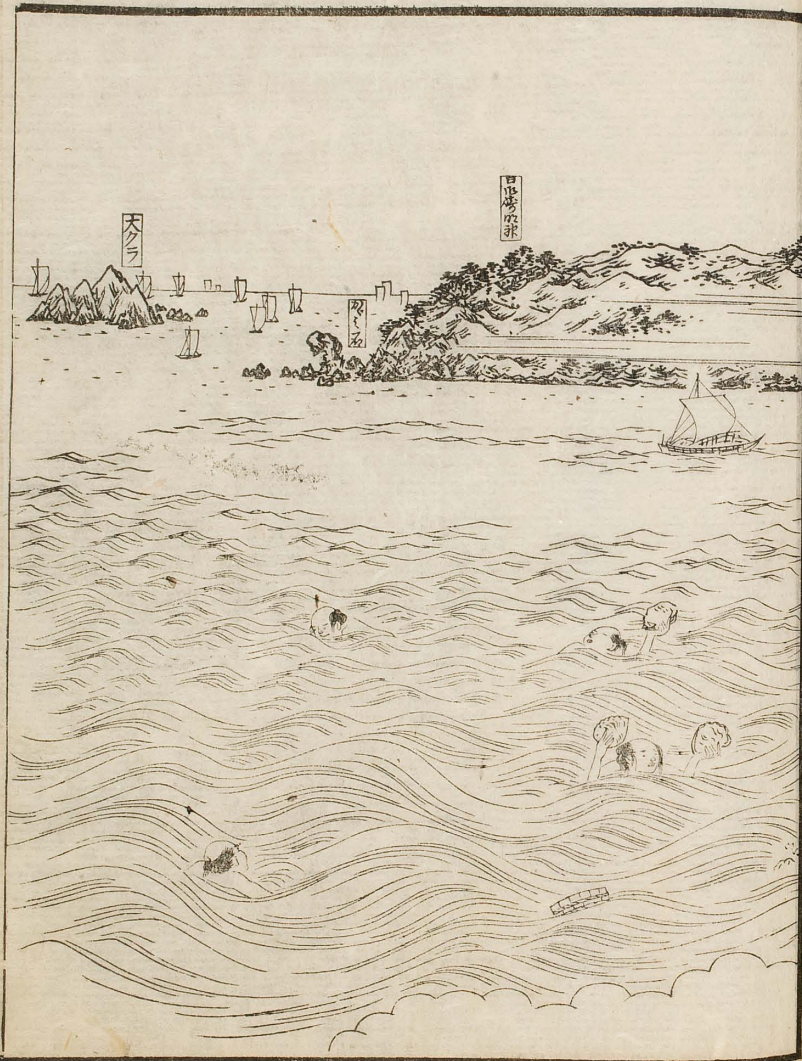
御寄

月浦小あり西小とて出を磯山樹林蕭蕭とありて下を神安とつ小村功會后

此御寄

月浦小あり西小とて出を磯山樹林蕭蕭とありて下を神安とつ小村功會后

乞らんとも子小似とて然也此御寄去依の足指湯湯



堤中泊言物云

かよとふと日れみさねとれ終るふまれ

按むく小河成ふ由敷泊とてふかまど此御所なりて海をくく日のみさね小河にちりて船をくくれ文を電と火と懸てて就小段なる此名なり

御所洞 中より奥樹林

と海中小橋つとて二分島之北勢をあらた小風流流悪
れまやれは舟師等あを将多るを基とてくう右
者幸妻れり幸ふも御所を由良此漢小田女漢地も趣
路ひもは併れりくびを趣け終るなり居べ一其眺を
も神小橋も河漢れ流ふを漢ゆく此れ其帆小連なる
他等浦々右まれ海流小遠り修鴻の巖々勢清の中小
出沒一市に崎の松れ緑々長く雲雲を為ふ小似白良
の濱れ白砂の非時の雲ともみそく抄寄る浪れさより
も白

かみ石

沖崎小舟は深きなりて取人れ腰をきりたるかみ石なり此名はくくと
つてた小橋流れ
むささる勢せは

英保浦

今二尾浦と割次和田村より磯山を越てふの約程一里漢多一尾浦
の額を二尾うらとてふ又海底小の龍をこれ便支も多くりり共

風早

日浦れ海辺南れ方小風とてゆれ震むる所をカガハイ又アミガハイ
とてカガハイを風子れ便多るなり又塩屋浦れ振煙山をもカガハイと
つて二尾浦より上りて浦てくくはる地小の磯さて二尾浦れカガハイ
れ磯さるる海草等をくくをまげ若くは磯にねるは磯れは風子れ起るといふ

或云見者悲霜無人思丹

風早之三穂乃浦廻平撈舟之船人動浪立良下

風莫乃濱之白浪徒於斯依久流見人無

按むく小風莫を古人のうらみとてふなり本國代名所とてふを以て
實文此頃より風莫といふ名をさるるなり年々新瀬戸崎の船不
知といふ入れりなりとてふ人ありとてふ返ふりれ地の名
れどくやれりとも暴風すても白浪起る事やなれともあふの舟
き小籠より風莫の風早を翻浪て即ち風子のさの
浦をよりるや久米家子れ懐古れこころなり

親王
て你林本子所り

光明寺
同蒲小可也海古甚宗西派先領憲外款在
好々尾倚輪嘉小堂云詠藻篇多々傳へり

みづれ管のうもひはづうひあにむも交わぬ浦の藻屑に窓卧

相傳より
 清三尾浦の近海海傍の中ノ所ニ周廻ニ四丁
 許頭上外ニ三株ノ所ニあり山ノのどやう

三尾浦乃海磯といへる大巖窟なり。窟形深さ十六町八
寸同より七八町あり十二に町あり。一海上小島西にて穴多

大小此處むらふれに、以て、海、面、小、陸、を、迫る、と、い、ふ、も、教、て、風、濤、衝、き、室、の、壯、ぜ、と、右、の、い、ふ、を、以、て、今、考、へ、た、れ、ど、限、小、三、尾、此、名、を、奪、一、こ、う、風、

農産物運送に万々集りて来たを以て地やまづ一々の考どもを船中より入てよりやとわがとわのへる風子に候れ而浪々ども令考より近來乞食の正

みくせとや、土人等清めて霧の白く志米縄を食より又霧
よるゝ西小ねけ穴とくふ、河を散坐因邪荷、簾端より似たア

皮爲酢寸久米能若子我伊座家留云三總乃石室者

雖見不飽鴨一云安礼尔家留可毛

常盤成石室者今毛安里家禮騰住家類人曾常無里

家留

石室戸爾立イハヤドニタテ在アル松樹マツノ汝ニ乎カ見ミ者バ昔アカラニ人ヒト乎カ相アヒ見ミル如ゴト之シ

見津見津ミヅミヅ四父米能ミヅノ若子我伊觸家武磯之ミヅノ草根乃千

卷惜裳

五社百首
紀のふのふは岩屋もささる程風そそ古き松小吹あり
定圓法師

古來不知名之書也
宇治二年百首
俊成卿

御意に任じ申上る南のつともてう人ふちれむ
 三尾虎の森南ふに里地ヶ村と認ぶ
 衣笠内大臣

申 中右慈尊奉命の御成あり
和国浦の小名事紙小町と繁紀十百申、日當

大月新氣社意々々氣の旨とつゝみみりく後々々々遊以
實録云
見
十二平十月十日乙未愛巴伊國三十六立二三奇申

貞觀一十三年十月十日己未朔
五立下
丁未

王三立 邱奇申

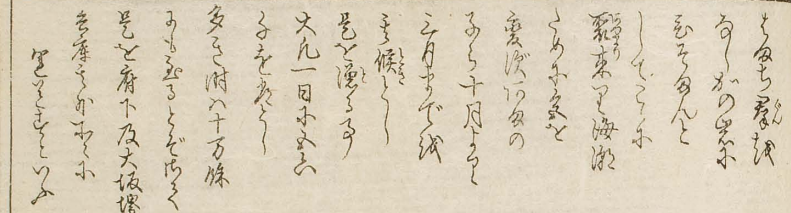
土家專小當土々上右すう多入く日柳くさくさ赤あか二に也や美

和田浦
ひのきさきの
日御埼
おんや
神社



較くらとり
 の図

大の浦いへも
 比美神お面お
 長く実出主
 間一里にあり
 の邊をさす
 巨巖数塊岩波の
 危ふく溜りて
 立ちどぬる
 舟れこち
 舟もも長流
 けけり千方の



菌莊そのしやう

新宮神庫文書

院廳下

可下卑任

使者國使相共壻四至打勝示令立券言上上蘭室

四至東限泉水西限田井船津出井南限甘田

侵公文右稱官使生紀康直

若去月 日 寄文 稿 謹 按 案內 件 所 者 地 主 永
南 北 傳 所 領 也 而 有 由 緒 所 傳 領 也 仍 今 以 彼 鄉 所 寄

建曆二年二月日

園八幡宮

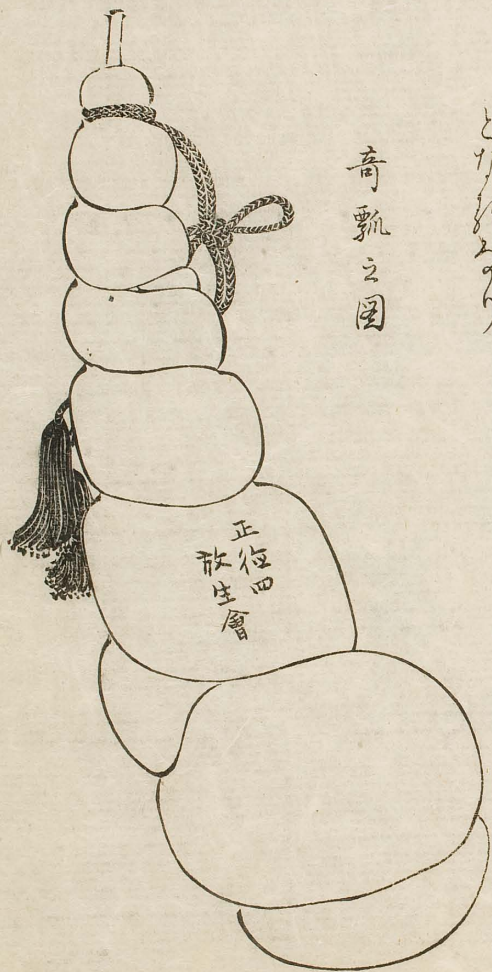
[illegible]

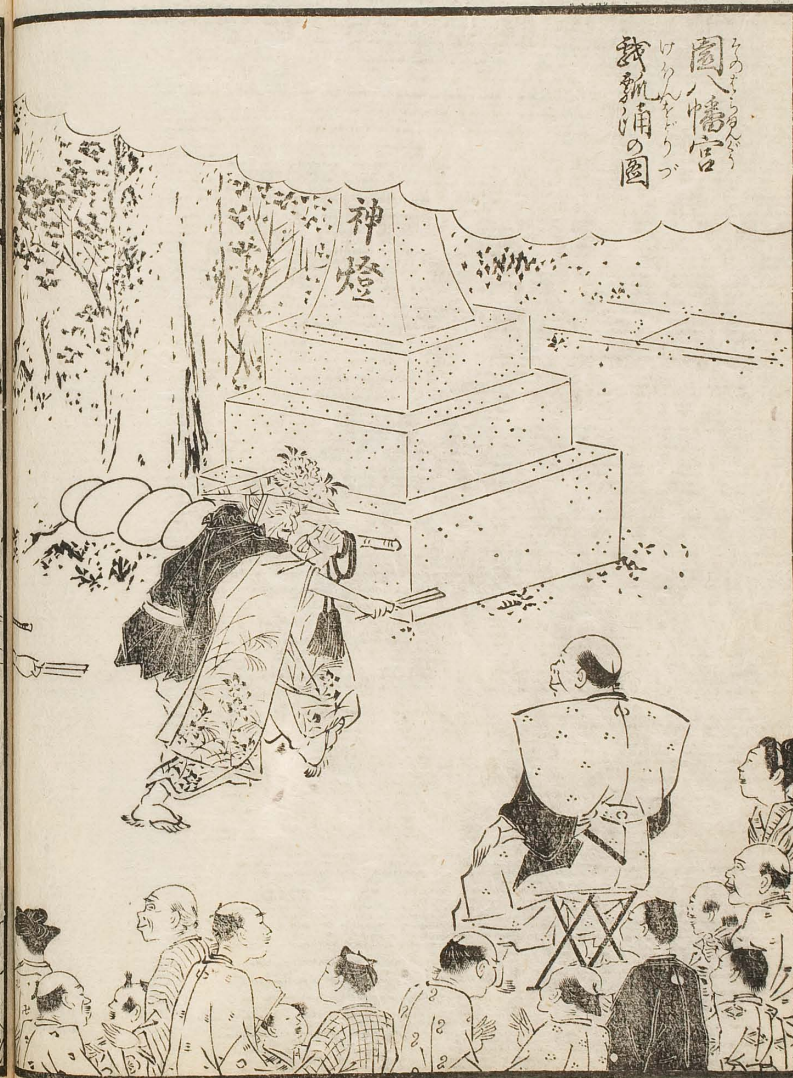
樹下常村の者ふゆいし師書りて四恩状とて今も本日
 先この文を讀むにけりて誦すといふことと云ふ文不曰
 四恩狀

丈人問ふに恩の四恩とて天地の恩父母の恩國王の恩元生の
 恩なり凡そ人たるものこれより天地の恩とて日月の光と作
 下を地を我らして穀菜果を食ひて一生とてこれられ
 勿論一日も天地の恩を忘るべからず次身軀を父母より受
 けりて多き暑寒衣の分ちなく種々苦勞を忍びてはげら
 せ漸く成長する事あれ一日も父母の恩を忘るべからず次
 丈これ職業よりしてはる父母とておひ妻子とてとくみ飢
 寒よりして代々安穩に暮らすみる君上の内親の恩ゆゑ
 一日もこれを恩を忘るべからず人一生これ内ふとて何れ
 事業ありて自むるものもてお世とてこれすけは人の力
 をわけて不足を補ひ急難をも救ふ事なれこれの恩は
 又忘るべからず此の恩の二つよりて常々これの恩を
 念ふゆゑ此恩のふたつとも忘るべからず父母の恩國王の恩と

忘ぬすべからずとてこれ二恩をうとてこれ父母の
 孝行とて一國王の法令とて守れこれの恩とて天地
 此の恩もわらひ元生れこれの恩も忘るべからずとて人
 とがこれなり

奇瓢之圖





奇童

安北頃當村小寒川作次といふ者なり其子孫を希にせんがはて
大つてをあらうを故に安元年に案小寒川君希にあらん日三年と案一
とて案小寒川にあらん日四年と案一とてあらん日五年と案一とて
時あらん日六年と案一とてあらん日七年と案一とてあらん日八年と案一とて
村中不幸故に所坊の事を以て村をも所坊と名づけた村園村を案一とて
古の村を連ぬ市街をうけて村中もあらん日八年と案一とてあらん日九年と案一とて

所坊

寺傳云湯川氏部少輔連光攝別江口にて之好長慶と號ひて坂小
せし時本願寺流上人連光の軍を助け騎馬二十人を割へ
て小松原に城小築らるゝとて連光其恩を謝せんといふ天文
元年於中宮東浦小松原小松原次今此小一字の堂を建立し
靈夢小ありて左國郡尾寺に河孫氏佛を安置し二男治
於女坊に妻入るに存を信僧として其宗を唱へ本願寺小池
順せし上人自れ肖像一幅を授けて是を貴次重書し
本願寺釋法如判釋形如天正二年乙亥三月九日書之證
以上人高親紀別日河孫吉原坊舍常付物といふて今も
存なりと後年連光吉原浦より蘭浦の古より村小遷

一文保四年武保賀守成智此地小遷次といふて
湯川連光草創此を以て其肖像を畫し一め今も存
るなりと善提を説ふといふと懸あり

南紀風雅集

自龍神還蘭村

釋法霖

迢遞關南萬疊山溫泉浴去悠然還仙源花落何由連
虎岫雲深不可攀今日得出連天之棧道漸接逆旅瘴
嵐顏園之村何遠茅屋縈紆繞江湾昏暮已投舅氏家
綏忘政涉行路難紀水濱吾舊廬彷彿山林烟霧問天
若借一雙鶴飛行不勞北轅咨嗟殷勤謝主人留吾縮
得一生間愛惜海南好風景山可上居江可投竿人說
川源自龍神川源繚繞幾林密還恨本在溫泉日不以
家書下急湍悠哉勝遊何其已探詩探興且忘餐或時
清宵步月立村橋或時白晝穿雲扣禪関况又高僧遇

いづれ
日高御坊

山佛堂

花家

うね

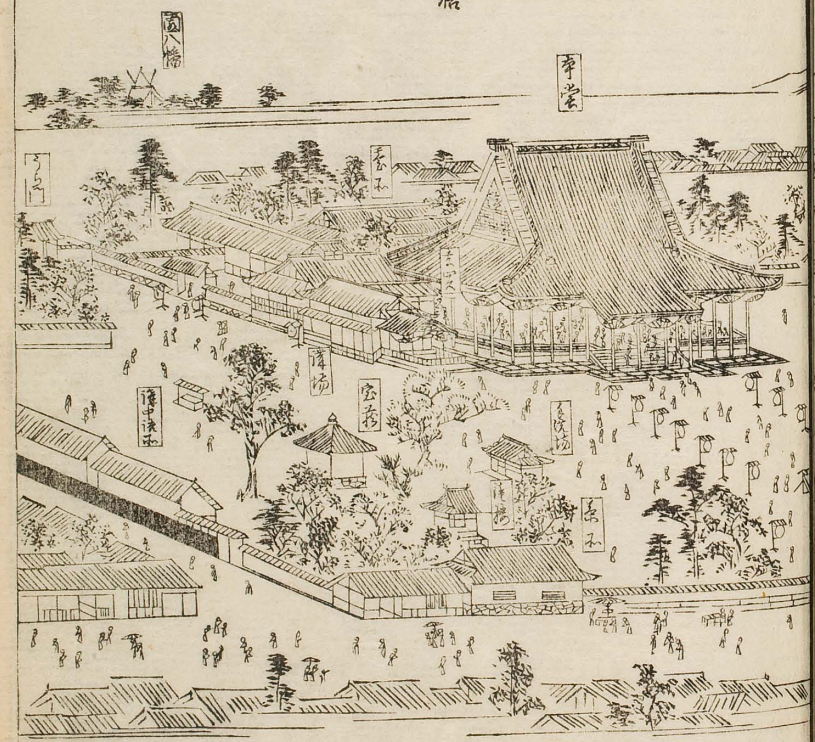
牡丹

一茶亭
白花



免登子
いづれ中
まの風
思
八悟

寺堂



日高御坊藏



夕
夕

知同莊

正平章

軍考小正年章といふ物矣公方へ紀後國糸田をよめ其板にありて
せられしとて嘉孝は次鹿元院公方へ紀後國糸田をよめ其板にありて
といふところありて正年を南朝の年号小して其公年小南北一統して
おれ親應は野をとらぬ天下魁正年北をを彫るし小嶺南が分れて
南朝を彷彿ひたせ給いしとて年号を冠し武章小止れといふ
べし且本小を源賴南朝の似せさせ多しとて受られは後小正板小なり
出るといふやうく授けりべくさうな又案沈氏傳記乃附錄小正年章乃
原板を正年す免章と稱次正板小と正年公年公月日といふ依公
所ありて古書小を又え改むる古と正章といひこれよりいふも
將軍考預書補正字小幸しく見えたり今本國ふて紫せし尤淺なる

千津

○ 要編

惣山王子社
 富安より道成寺へ至る途中に此社あり
 といふ言田村子殿次郎幸泥みりといふ



○八幡宮
中ノ山ノ上ノ所ニ御ヤサニ山ノ國
男ノ上ニテ氣流次ニツカサニ故帝ニ来ニツカ

○
御幸記云
日暮史人等三馬日三下久
をうづきよし知解をわかれりつり

十日 畧次又愛德山王子次久々王子次寄小松原御所云云

○**浄卷**
古く村の校訓あり道成
寺門蘇小菰舎なり

○道成寺
旧所子所是天台宗子て
天嘉山子と院とつて

奉堂 奉尊千手觀音

海座小光主に一人は海士海有ふへて擲るふ一寸八歩は翻洛體金の千を銀
 妻れ係うれ海士れ髪ふきふひてうて上らせ海人ハ儀を海間の内不入是て今乃
 幸ふ一文二文れ
 係をむとつふ

脇士同光月光善渡長八
 釋迦堂りやうだう 護摩堂ごまだう

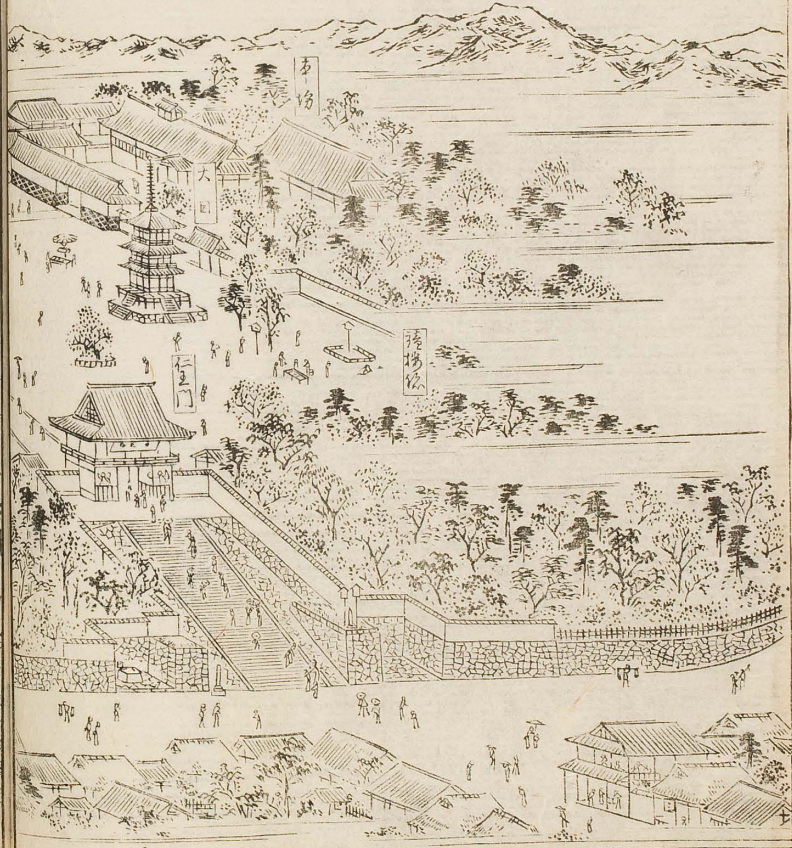
常念佛堂 十王堂 三重塔 樓門令堅力 上内り
當寺は名天下小づくと懸於泰結此境とくありて所より此寺
一寺傳ふ 文武天皇の勅願して紀大石道成公奉りて
建えんせられ吾朝小始々出現せし千々千眼大聖觀音菩薩
薩さつの聖場せいばありとつて 文武天皇勅願所は事乙酉年乙卯に遷乃
詔みさそりて紀大石を奉りて

人國史及公卿補記にも載せぬといふ、當舎古々十人坊ありて之を
 寺願も若年より小い法也此時中へ没収せうれ奉文を
 奉議所氏此時より更小燈油料米を寄附せし厚奉當
 も属修造を應れとも今に古丸を傳へて屋上の鬼瓦等小
 天授享祿此年師を遣へて法華驗記今昔物語集
 元亨秋番及當寺此縁起にも委しく載る僧安政此僧大
 同小異小あて後無人口小も然矣これに今畧記次延永長
 八月の頃矣則より元同より僧の然燈条信よりあり
 元亨秋番縁起にも、
 其娘 孝娘小女これ名を法娘といふ、
 則取小きて迫て婦とせらんと次僧驍きてお辭すとつへ
 とも強さるれば泰治此病願を遂て後主意小はるへりと
 佛をいへて歸途これ門を乞ふぬ既けるをうて大

佛をばめて帰途そ北門を乞ふ奴瓶はるを啖て大

道成寺の全図

去るに
これの
いふを
みよ
うの
た
真祖



境内の
碑

ゆきや

もはの

あ十二

風

寺

さう

えん

は

う

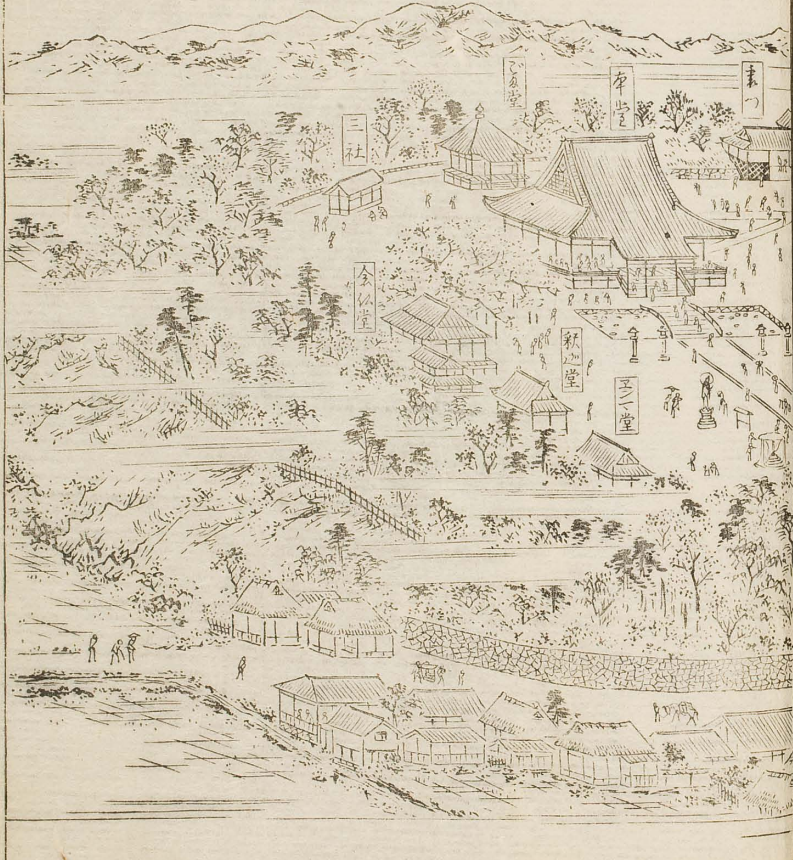
松

石

う

あ

眼

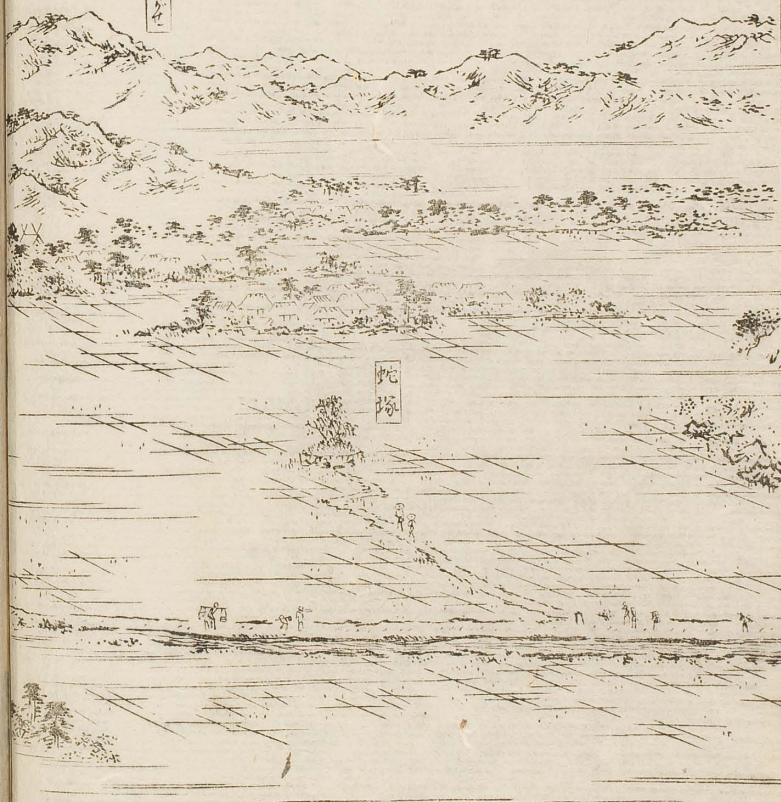


其二

蛇塚の図

蛇塚
蛇
塚
の
図

蛇塚



道成寺古瓦

一尺八寸五分



一尺四寸五分

一尺八寸五分

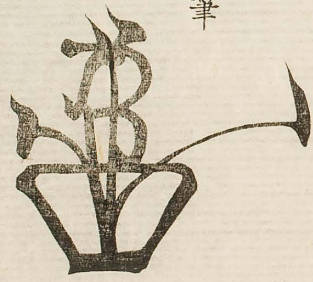
天授三戊午季春日造

一方大檀那吉田源藏人頼秀三男
源金毘羅九

小怒^{こど}己^こ和^わ奇^き志^し家^けを^を出^で息^{いき}大^{だい}地^ちと^と化^け志^して^て逐^{しゆ}来^きれ^る僧^{そう}當^{たう}
 ち^ち小^こ志^し己^こ入^い其^{その}衣^えを^を當^{たう}て^て扱^{さく}ひ^ひを^を求^{もと}む^む元^{げん}徒^だ等^{どう}大^{だい}鐘^{しょう}を^を
 ち^ちて^て僧^{そう}を^を當^{たう}ひ^ひ以^{もつ}て^て當^{たう}を^を手^て置^{おき}て^ても^もか^かれ^れ妖^{よう}地^ち尾^びを^を
 以^{もつ}て^て手^てを^をう^うち^ち碎^{くだ}き^き鐘^{しょう}を^を碎^{くだ}ふ^ふ火^{くわ}饅^{もう}ゆ^ゆえ^えに^にけ^けり^りの^の
 か^かへ^へて^て元^{げん}徒^だ等^{どう}を^を傷^やて^て中^{なかつ}を^をえ^える^る小^{せう}僧^{そう}々^々骸^{がい}骨^{こつ}を^を
 残^{のこ}れ^れて^て數^{かず}々^々に^にて^て或^{ある}老^{らう}僧^{そう}の^の夢^{ゆめ}小^{せう}僧^{そう}も^も妖^{よう}地^ち尾^びに^にて^て
 来^きて^て壽^{じゆ}量^{りやう}品^{ひん}を^を寫^かし^して^て苦^く道^{だう}を^を免^{めん}じ^じ志^しめ^めん^んる^る残^{のこ}
 え^えふ^ふ老^{らう}僧^{そう}々^々れ^れ願^{がん}の^のや^やく^くふ^ふせ^せて^て一^{いつ}僧^{そう}々^々現^{げん}率^{そつ}天^{てん}小^{せう}生^{せい}
 と^と女^{にょ}の^の切^{きつ}利^り天^{てん}小^{せう}生^{せい}れ^れと^と又^{また}小^{せう}生^{せい}々^々と^とむ^むか^か中山^{しやんしやん}傳^{でん}信^{しん}錄^{りく}小^{せう}琉^{りう}球^{きう}
 國^{こく}樂^{らく}位^いを^を記^きせ^せて^て中^{なかつ}小^{せう}淨^{じやう}庵^{あん}れ^れと^とつ^つふ^ふあ^ある^ると^と後^ご曲^{きよく}中^{なかつ}小^{せう}他^たれ^れる^る安^{あん}法^{ぽう}が^があ^ある^るふ^ふ
 よ^よく^く必^{かならず}ず^ずか^かれ^れて^て去^さる^ると^とう^うる^るを^をえ^えず^ずて^てか^かの^のふ^ふか^かて^て被^ひけ^けて^てあ^ある^る間^{かん}の^のふ^ふふ^ふと^とあ^ある^るふ^ふ
 こ^これ^れ後^ご法^{ぽう}と^とう^うる^ると^とう^うる^るを^をえ^えず^ずて^てか^かの^のふ^ふか^かて^て被^ひけ^けて^てあ^ある^る間^{かん}の^のふ^ふふ^ふと^とあ^ある^るふ^ふ
 中^{なかつ}城^{じやう}縣^{げん}姓^{しやう}村^{むら}農^{のう}家^け陶^{たう}姓^{しやう}有^あ兒^に名^な松^{しょう}壽^{じゆ}年^{ねん}十^{じゆ}五^ご歲^{さい}白^{はく}皆^け端^{たん}麗^{れい}至^し
 首^{しゆ}里^り從^{じゆ}師^し一^{いつ}日^{にち}行^{かう}至^し浦^ほ漆^{しつ}山^{さん}徑^{かう}中^{なかつ}向^{かう}昏^{こん}黑^{くわく}持^ぢ一^{いつ}竹^{ちく}竿^{さん}點^{てん}地^ち行^{かう}見^{けん}
 燈^{とう}衣^い乃^の一^{いつ}帶^{たい}家^け父^ふ出^で夜^や獵^{りやく}止^{とど}一^{いつ}女^{にょ}年^{ねん}十^{じゆ}六^{ろく}頗^な妖^{よう}麗^{れい}留^{りう}宿^{しゆく}挑^{てう}之^し
 松^{しょう}壽^{じゆ}寺^じ主^{しゆ}持^ぢ僧^{そう}普^ふ德^{とく}頗^な有^あ行^{かう}松^{しょう}壽^{じゆ}寺^じ入^いん^んを^を救^{きう}四^し顧^こ無^む隱^{いん}處^ち僧^{そう}
 有^あ三^{さん}方^{ほう}壽^{じゆ}寺^じ主^{しゆ}持^ぢ僧^{そう}普^ふ德^{とく}頗^な有^あ行^{かう}松^{しょう}壽^{じゆ}寺^じ入^いん^んを^を救^{きう}四^し顧^こ無^む隱^{いん}處^ち僧^{そう}

伏^{ふく}之^し大^{だい}鐘^{しょう}内^{ない}令^{しやう}三^{さん}徒^だ守^{しゆ}鐘^{しょう}旁^{はう}女^{にょ}至^し三^{さん}僧^{そう}戲^ぎ擲^{ちやく}逐^{しゆ}之^し女^{にょ}不^ふ得^{とく}松^{しょう}壽^{じゆ}
 御^ご天^{てん}如^{ごと}鐘^{しょう}出^で門^{もん}太^{たい}僧^{そう}啓^{けい}鐘^{しょう}有^あ聲^{せい}女^{にょ}還^{かへ}奔^{ほん}入^い去^さ欲^{よく}為^ゐ雲^{うん}忽^{くつ}披^ひ髮^{はつ}改^{かい}
 形^{けい}入^い鐘^{しょう}内^{ない}普^ふ德^{とく}與^よ諸^{しよ}僧^{そう}繞^{りやう}鐘^{しょう}咒^{じゆ}之^し女^{にょ}自^{より}鐘^{しょう}倒^{たう}垂^し首^{しゆ}出^で見^{けん}鬼^き面^{めん}手^て
 一^{いつ}又^{また}下^げ擊^{げき}諸^{しよ}僧^{そう}々^々咒^{じゆ}不^ふ已^い寺^じ外^{がい}大^{だい}雷^{らい}電^{でん}女^{にょ}化^け魔^ま走^{そう}出^で不^ふ知^ち野^や在^あ
 是^{こゝ}百^{ひやく}年^{ねん}前^{ぜん}
 國中^{こくちゆう}車^{しや}云^{いふ}
 道^{だう}藏^{ざう}寺^じ緣^{えん}起^き繪^{えい}詞^し二^に卷^{くわん}
 書^{しよ}々^々後^ご小^{せう}松^{しょう}院^{いん}の^の宸^{しん}御^ご法^{ぽう}々^々古^こ依^い光^{くわう}表^{へう}此^{こゝ}筆^{ひつ}と^とい^いふ^ふ人^{にん}
 小^{せう}足^{そく}利^り

足利義昭自筆



右^{みぎ}の^の所^{ところ}別^{わか}者^{もの} 所^{ところ}出^でる^る信^{しん}
 天^{てん}正^{しやう}九^く年^{ねん}十^{じゆ}二^に月^{げつ}日^{にち}至^し興^{かう}國^{こく}寺^じ被^ひ福^{ふく}

あふ先達若水房より

我より男より法師

かきこ半箱のふと

居て迎くる

若き信りし

老信也

つれていられぬのひなふ

さねの人にと

七八町 延ねぬや

七八町と

云事

わ

十二三町

と

其二



三其

女房の如く

ふち

わあ

あゝ

いふは法師の

うう 人

兄はす



其 四



女房衆

衆も水鏡人

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も

衆も



其五

人若わひをらん

えはう

さ

い

あもろ

まーろ

ア



あもろ

あもろ



あもろ

ア

あもろ

あもろ

あもろ

あもろ

あもろ

あもろ





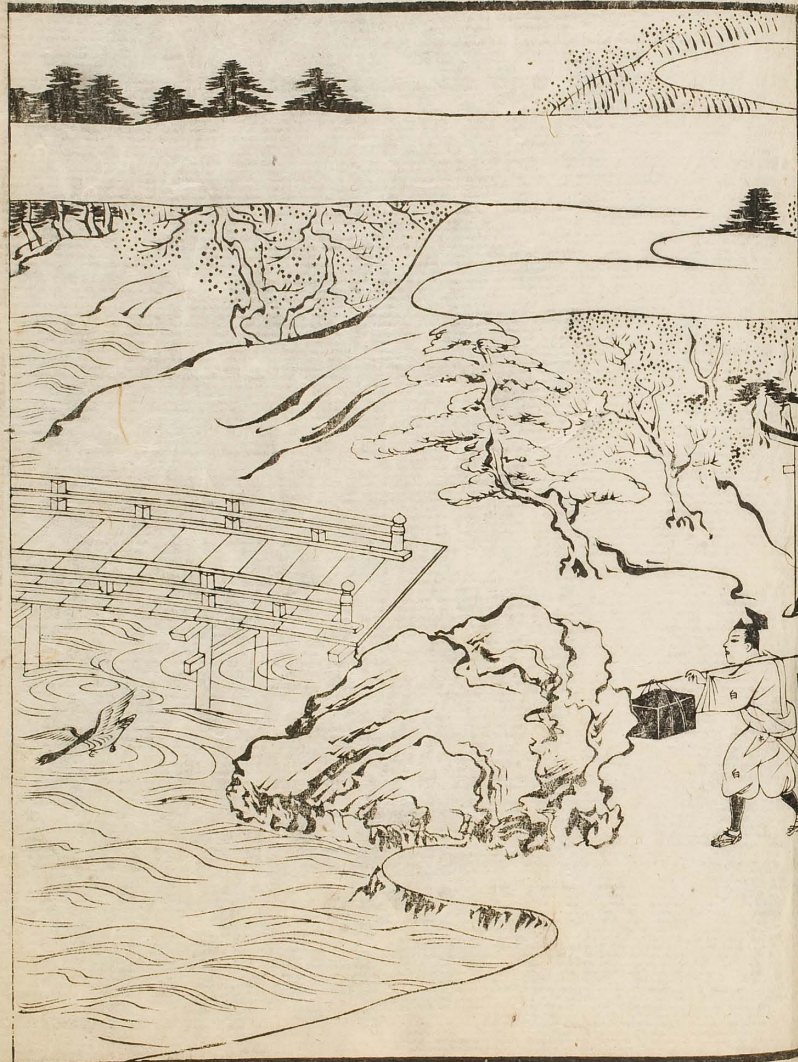
月
 舟
 龍
 波
 雲

六 其

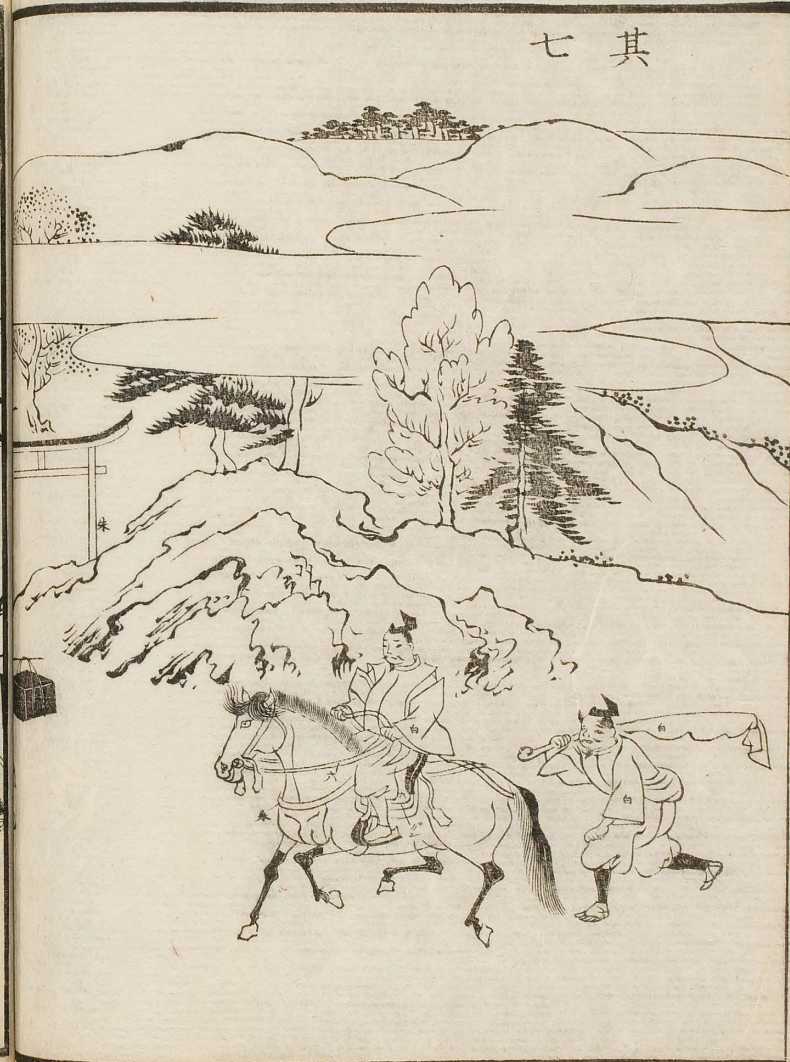


地分抜白

のせ東一
 観
 不
 儀
 若
 ぬれい
 て



其 七



其八

おのの事河

沿にいにく

いそてう孫

ひきうたきて



わ

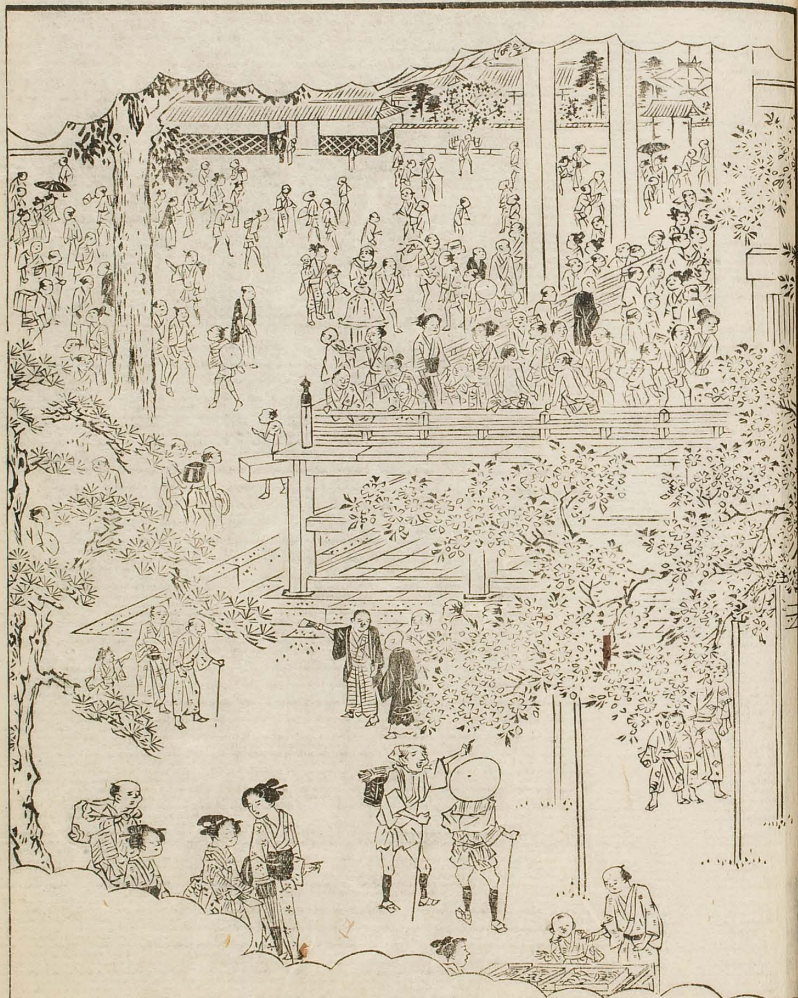


きくをけ
みねの
ゆげ



櫻大樹

山櫻半是糝
僧房嬌態十
分慈與長不
識西洋春色
美佛心定有
感東方
右道成寺
賞花
水寄忠明



沙弥とて薬師經十二藥又神の名を誦へて里を尋て食を乞ふ僧ありたりとて小来て正税を給へ人小執て惣と乞ひこれ持家長つ小も乞て乞々屋小乞物を八護さ次て其荷つる稿をさへちし繁盛をも剥て抱ちられも沙弥其別され僧坊小遊浪れども家去逐捕へて更小己が小率て大石を拵く沙弥れ既小當てつゝやそれ十二藥又神名の咒を讀み々家を護へといふも沙弥經び々小強てつゝを一遍とみく舟ぬさて後久しうとぞとて家長と地ふしつゝれて死ふと云

八幡宮

古中村小ありて六ヶ村の産女林ありゆ祭八月十日當り同村の小名わさるれこれ社群小集りて誦るを祝誦といひて祭礼法武のそと飲其誦乃さる先奴とて勇壯なるゆれ一人を擲びてこれを誦長とて奴の號をる一鴻れ既中を難津の陣をくれ大小を帯りて先を立ち次小同一装小て一振小紅脩の既中をさるれ強きをくれこれ老奴十人

川上荘

北四里休所といふとて二年造内裏浪沙各園役帳小六町と云

江川宮

大川小入る合流の邊とて及井れありとて流出て板村を經て和佐村とて

正八幡宮

上江門村小ありとて其後とて小遊とてつゝ永永天年る當社の致せ

眞妻山

同村の板板大池川の南小ありて作し

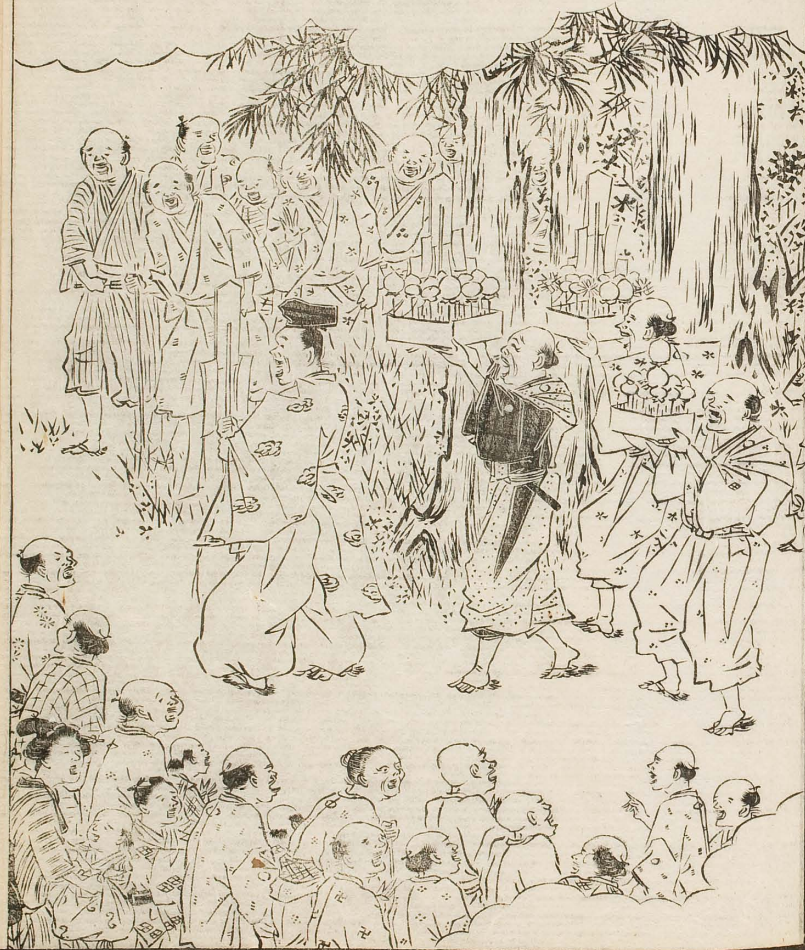
下坐 天 安 梨 諦 夏 瀬 丹 生 忌 杖 刺 給 比 下 坐 天 日 高 郡 江 川 丹 生 忌 杖 刺 給 比 返 坐 天 那 賀 郡 赤 穂 山 乃 布 氣 止 云 所 尔 太 坐 志 云

此山當郡を流されき孝小あて江川の源ありとて南林母まき神の大社ありとて



土生村
 八幡宮
 祭日往朝
 あぐ小鯨
 の者奴踊
 をちん
 馬

丹生神社の祭



唐司馬とて大増宮に無子近江守拒し
一事大平記に唐司馬子に妻は孫を以て左衛門尉
唐司馬とて来つて玉置氏とて近江守玉置氏とて
姓を孫原と改む二子あり一子玉置山別當とて
二子に當り山地を東村小桑に任次其時郡中川上桑
女とて老らるゝ近郷を押領せし二子ありを
穀穀して其地を奪ひ一人は城小桑に一人は鶴城
を保つとて康永元年其父書村桑穀
左司貞頼とて入つて武家方とて又天正に頃玉置
大平亮直和湯川直喜其女を娶れり豊后前南征
順地を割る一事をいふ事とて村を受次し
言ひ山小桑を仙光院とて次後又其事をいふ村
を受け慶長四年死次其子小桑右尾藩小桑といふ

城が段 同村山崎小桑とて中古れ城とて川上桑女子を湯
則秋代居所といふ川上氏の所なり

大山神社 入野村大山小桑といふ山ありとて山形富士に似たり當社及若内
本藩小桑といふ時を敷ひ多し山形社小桑といふ所なり今金を

山神の舊地 今山形社小桑といふ所なり大桑をいふ

日高郡 從四位上山神

早稲神 今山形社小桑といふ所なり村中大山とて山形社小桑といふ所なり

早稲神社 今山形社小桑といふ所なり村中大山とて山形社小桑といふ所なり

日高郡從四位上早稲神

信業寺 山形村よりして唐司馬の所なり唐司馬の所なり唐司馬の所なり

冷川 入野村よりして唐司馬の所なり唐司馬の所なり唐司馬の所なり

舟津神社 山形村よりして唐司馬の所なり唐司馬の所なり唐司馬の所なり

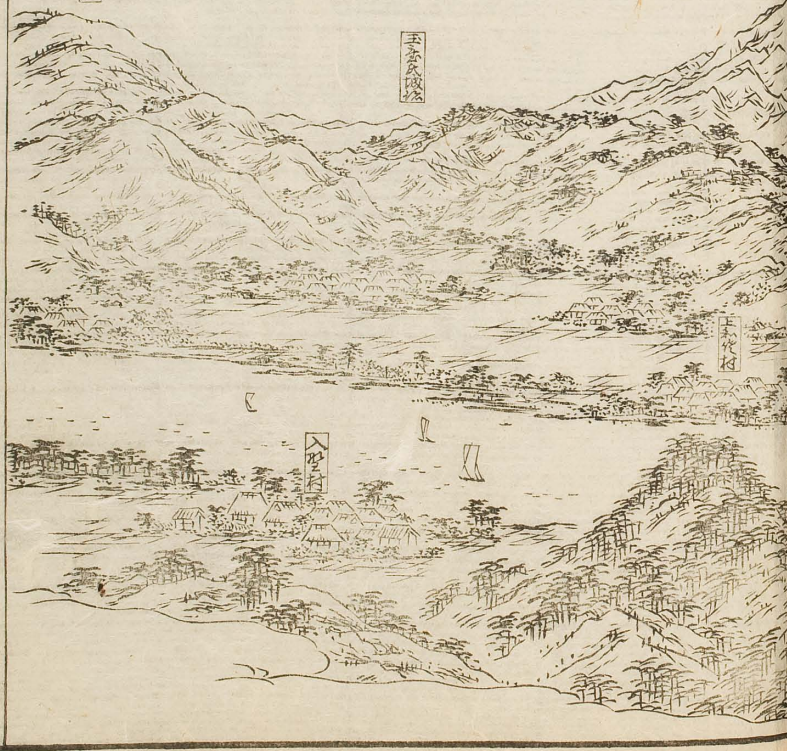
大山権現社前
 山と目高川を
 隔く真妻山を
 望む

大山山



真妻山
 やま
 あま
 ひめ
 山
 瀬見善水

和歌山



船つ津

田子川の
なれ
よりよ
みづの
りて川
の
えん
小
鏡の
は
こ



う
ね
川
えん
て
か
う



神皇正統記

藏王權現社 辛川村より電るう二十町許の山と
りけり高きう山ちしつ

七
王
見
を
と
老
年
あ
て
糸
龜
きつね
う
ろ
か
り
十
迄
又

木石之文

八年神教小豆粒一多中ハナ小神ハナ泥ハナと路ハナ入ハナてハナ撥ハナ良ハナ此ハナ糸

諸を^人裁^人ト^人裁^人ハ今^人と汝^人里^人近^人き山^人小^人ゆきて供^人を^人受^人く

遂に天啓^{てんけい}のひらく堂舎を^{こう}創

場——とつて
 海常々急死ありて追々天台座に
 登るゝ一寺ありて千載の修
 登壇の山路に

橘北犬樹左子列植次圓前右也此婦人等言是夢也

本社より此の如く
 吾等小池海雲を建て
 興院と欲す

地まゝに 菊折とて 大徳庵所と 唱へ申刻より 大徳庵と

とれり 折込山立田日高此二郡小湊^{オウモリ}より川をたれ衆文にふ

汁
あゝ在田れ美のふくとくとね賀歌中を北子とさけふ

地十津川の噂々々東に市々々西に郡中代村藏山々乃

[illegible]

とありて海に小走りて日北津^{ひきたつ}津^つ去^さ奥^{おく}南^{みなみ}新^{あらた}津^つを^を帆^ふ引^ひく

らねる可波廣海寺一寺に此髪を込めて入道分りて書妻

國^{こく}人^{にん}の^の東^{とう}南^{なん}に^に雲^{うん}小^{せう}尊^{そん}に^に列^{れつ}多^た二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}八^{はち}日^{にち}

之藏王^{ミコノサカ}毛海^{モウ}二王^{ニミ}乃^ナ孫^{ミコ}曰^{イハレ}ハ^ハ乃^ナ男^ヲ女^メ孫^{ミコ}糸^{イト}一^{ヒト}也^{ナリ}

振

蕎麦そば 山形村川所弓北山魯多く蕎麦を挫て有下小出以味よ

大隈川村の川流す

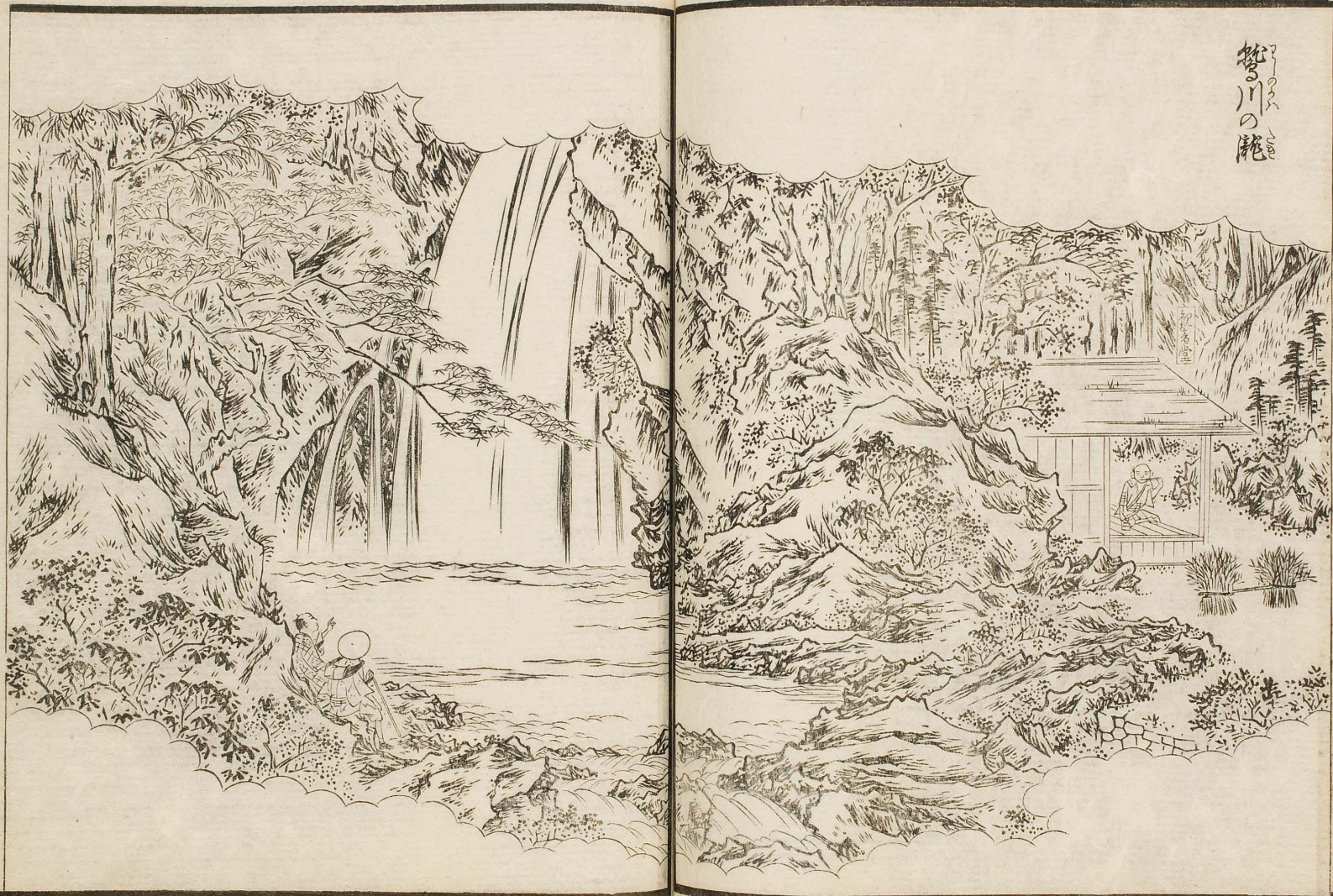
寄 幸ふより洋

一 太宰府西海
新津八幡名小て旧村ふ合れ
毎差を勝の上とて
雪見

[illegible]

一、ふつちつ頼を可ふつち心ふつち少い多いをいて
 二、ふつちつ頼を可ふつち心ふつち少い多いをいて
 三、ふつちつ頼を可ふつち心ふつち少い多いをいて

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、



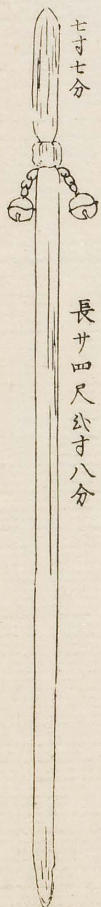
龍の川
の
龍

芳澤あけみ



あけみは當朝
小原長滝村の農夫吉助の
いふ者の子に幼少より大坂に在り
後雖優を以て名を三都にあはる其技
且み長。物々頭と稱る父吉助其賤業あるを
享祿年中病て死歟當に大坂の人といふは後より今其國をいひて婦女子の清美に傳ふ

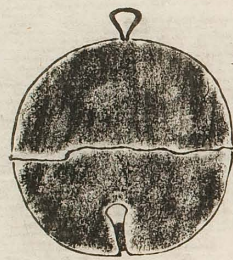
長子八幡宮
神寶の圖



七寸七分

長サ四尺八寸八分

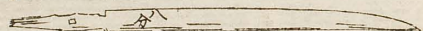
鉄鈴



高サ五寸八分
廻り四寸八分

本

七寸八分心中

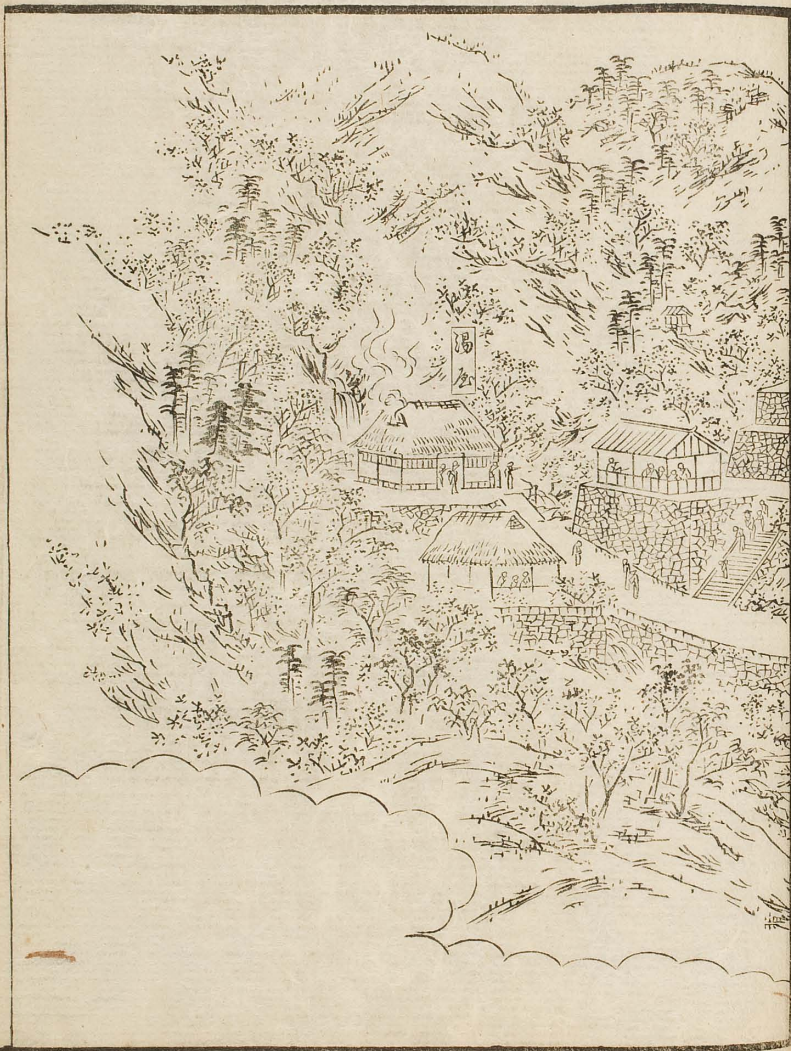


寸五尺五



分六寸五尺五

後
十寸五分

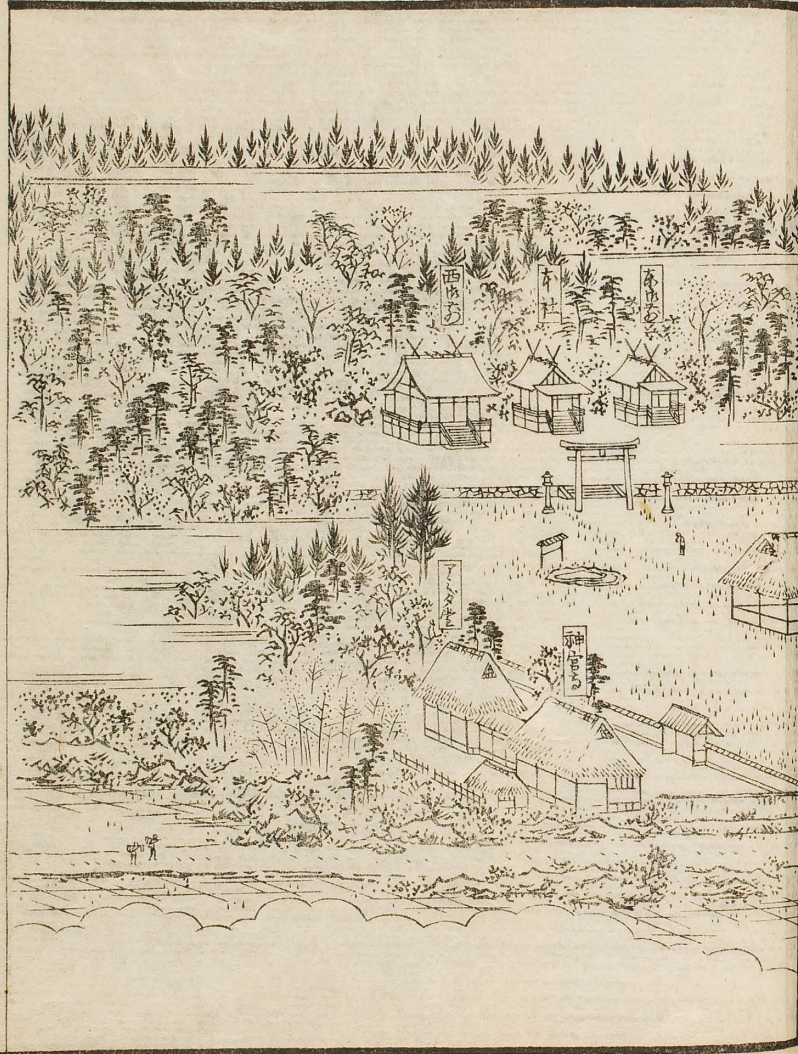


神場
温泉
の
ふ
る

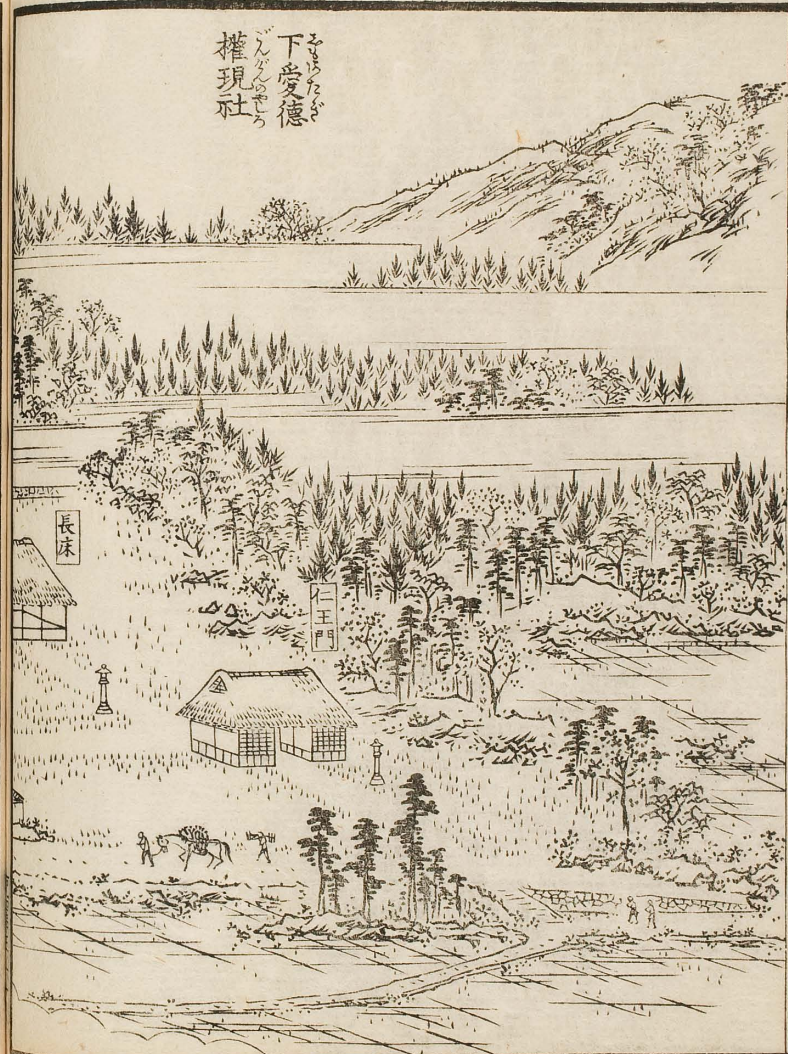


嶺より山密連絡として深谷に抱せれる小堂大に藤地
 をトして僧堂を擇り其始を二小正徳年（一〇八〇）小堂
 河内藤原寺僧順榮（一〇八〇）といふ者始めて此地の置るの
 あり疏黄れ氣にれをんく汲りて湯と一（一〇八〇）高志小澤せ
 り一（一〇八〇）小切驗りり一（一〇八〇）ふ常くせ小知らせんをわひて茶沙
 堂を建て多庵を結びて男女れ子をまひてこゝ小僧一
 り一（一〇八〇）治客多く小僧一（一〇八〇）新小治客をも建てこゝをこぞ
 それ客めを石鑪より冷くこゝをさづて受くこゝを涌出
 るを管を據り小一（一〇八〇）湯桶小と治客各自湯めく
 治次小齋齋庵等小を現能ありといふ
 小愛徳六所權現（一〇八〇）皆東村の枝河内本村あり
 然野の大神出雲園より一（一〇八〇）然野小遷坐一（一〇八〇）ありてより一（一〇八〇）教
 世を修く後小延喜廿二年十一月十日に東村小形宮小記

れる神靈日言川の枝河内雲川の郷あり大弟れ時小天降り
 あり小其附より其吉見といふ穠人其妻小外一居り
 一（一〇八〇）小登れ方小當りて光明くやきて天降り小説を記
 一（一〇八〇）後小家をより一（一〇八〇）とむむそれより七夜を修く延長
 六年二月十八日河多木が東小出現一（一〇八〇）後ひて志徳権現
 と齋を祀り（一〇八〇）今れは東村 上志徳社地 それより三十一歳を修く寛
 治六年八月廿二日巾子形東といふ小遷りあり天仁二年
 二月十三日東尾小遷り一（一〇八〇）後より一（一〇八〇）建保れ城起りみ
 といふ東尾宮々即當社よりといふ傳ふ神名小愛徳と
 地名れ河多木東より一（一〇八〇）起れるありかれ地小記とて上志
 徳と稱一（一〇八〇）此地小記とて上志徳と稱上下此二社ハ河
 山れ内ふれども其名那中ふりて社殿も古を杜羅あり
 一（一〇八〇）といふ傳へ今も此大社乃形あり明徳三年小當り遷り

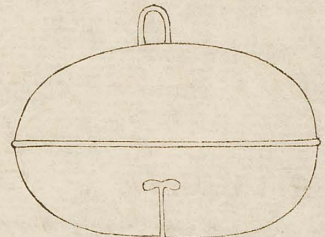


下愛徳
権現社
じんぐうでら

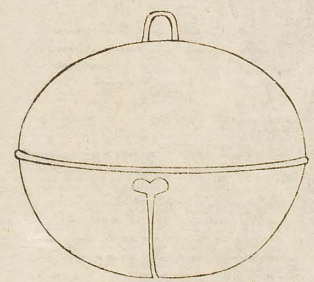


小愛徳権現
神寶六拾図

ツマミヨリ
拾口マデ四寸四分



廻り四寸九分



寸九分

廻り八寸

の神名を書ける中、小を法授けんと見え、つらも、此二社と稱せ
般陀文も立田於
 純正器も有り、又、神寶記も、使ふと、つたなるも、當社より分
 ちなれる祠あり、一、當社の神宝、小古、新、古、より、此、新、天、地、二、
 具、仁、字、下、へ、一、神、宝、記、より、新、宮、の、寶、殿、小、納、を、稱、す、の、神、
 寶、中、より、新、書、並、新、十、具、を、分、ち、す、其、新、宮、の、神、寶、一、新、の、
 神、の、新、ひ、も、小、納、と、い、ふ、新、記、小、納、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、
 混、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、
 太、新、記、を、新、記、中、二、百、二、十、一、の、新、記、永、永、二、年、乙、未、九、月、
 願、主、比、五、坐、仙、菴、主、と、い、ふ、其、傳、説、中、に、年、中、に、新、記、月、
 七、日、小、納、右、右、新、記、的、を、新、記、中、に、小、納、と、い、ふ、新、記、と、い、
 新、記、を、新、記、中、に、小、納、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、
 其、本、新、記、殿、小、納、を、新、記、と、い、ふ、何、の、新、記、と、い、
 一、又、新、記、十、八、人、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、
 新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、ふ、新、記、と、い、

建保縁起

建保元年二月八日給高家東光寺邊觀惡筆了云云といれ
るも文中を考ふるに建保四年の事なるを以て改めたるなりといふ
事と云ふに御しかなる女の人をまつたてたてた

くくあゆみふふふふ大男女世を始め給ひ一勝古
志代戸通七日仍く船泊無きれば神とありを以て
ふふと思へ食へ宮を出て其好小御坐りてつ
てふふと眉つてふふと夜弱と七日其後之を以て
多ふもつり堅めりへ次梓春れふふとてふふと法神と
告て宣へく吾は泊地ふふと思ひふふとてふふと造り立
るふを得次とてふふと宣ふ時ふ然神神を船泊つ
くらんと思へ食へ梓春の神ふふとてふふと家飯

泊つてふふと三日も七日も一月もふふと
と一ふれるふふと三年もふふとてふふと
ふふとてふふとて件れ泊小御坐りて作てふふと
と泊れ中ふ籠のふを作てて坐次小大鷲出来て船
ろくろ番ふとて三ふふとてぬ時小梓春の神乃思
一食一膳とて然神神之ふふとてふふとて
とふふとてふふと物を思へ食へて出ふて軍武男
河須賀大船神を彼泊小率るく御覧一ふふ大鷲此
ふふとふふとて泊れ危ふ比岐かふふとて梓春乃
神智にり歎きふふ河須賀神申ふふと如何に悩
みふふとてふふと家新出ふふとて潮押あてふふと
河須賀神もふふとて然神の神もふふとてふふと
切ふて新出ふふとて其時梓春の神宣くく家新小飯

泊つらんをせしむもつらんを離くして久々ぬ
 水^{みづ}あへ子影に旅多かれ彼等^{カミヤ}故とわらひなむ下今ハ
 塩氣^{シホ}甜れてやかうれふゆゑこれ脚^{サナ}を尋て穿^ス履^モり
 多くと宣ひしむば慈^{タミ}登^{ノボ}神其そふ泣いて涙のふと
 尋ひて西より東^{タミ}巽^{タミ}ふ出ゆと泣ふ脚よりふひと千
 花^{ハナ}れ脚衣^{ハナ}曾千花^{ハナ}潮^{ハナ}ふ膝^{ヒザ}浸^{ヒタ}しあはれ奇^{クス}しと神
 子とてわては^{以下長寛} 弘文^{弘文}お引くれ神^神玄^玄端^端跡^跡起^起
 子とてわては^{以下長寛} 弘文^{弘文}お引くれ神^神玄^玄端^端跡^跡起^起

河上氏の東小川といふところ十四ヶ村を結び上野懐社の
跡をその川氏に修する甚み希れ文書を託むとて多し

口

口
魚永十六年此詔あり其化實徳三年修法の
簡札此魚三年天正三年上禦札あり

謹令言上公於我亦身上之事不為之依流罪自去年
雲川山居仕公後幸之東歸國之俄悔之改神主其位
上卑年信長公致出公從前之跡成主申如友公於本
之者當言一社為私造作仕主雲川主申後於東代

天正九年癸卯月吉日

修久間甚久

寧榮

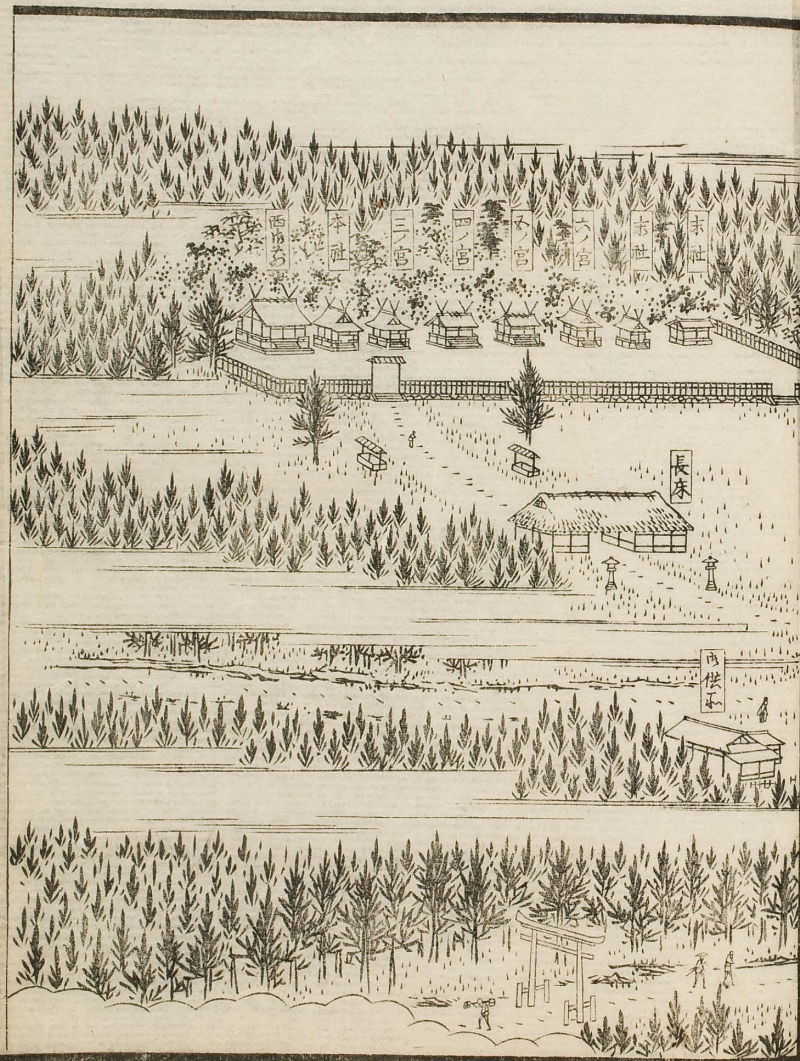
上卷

六社推現社 坐板村北界外乃全境
內東西二町 南北二町

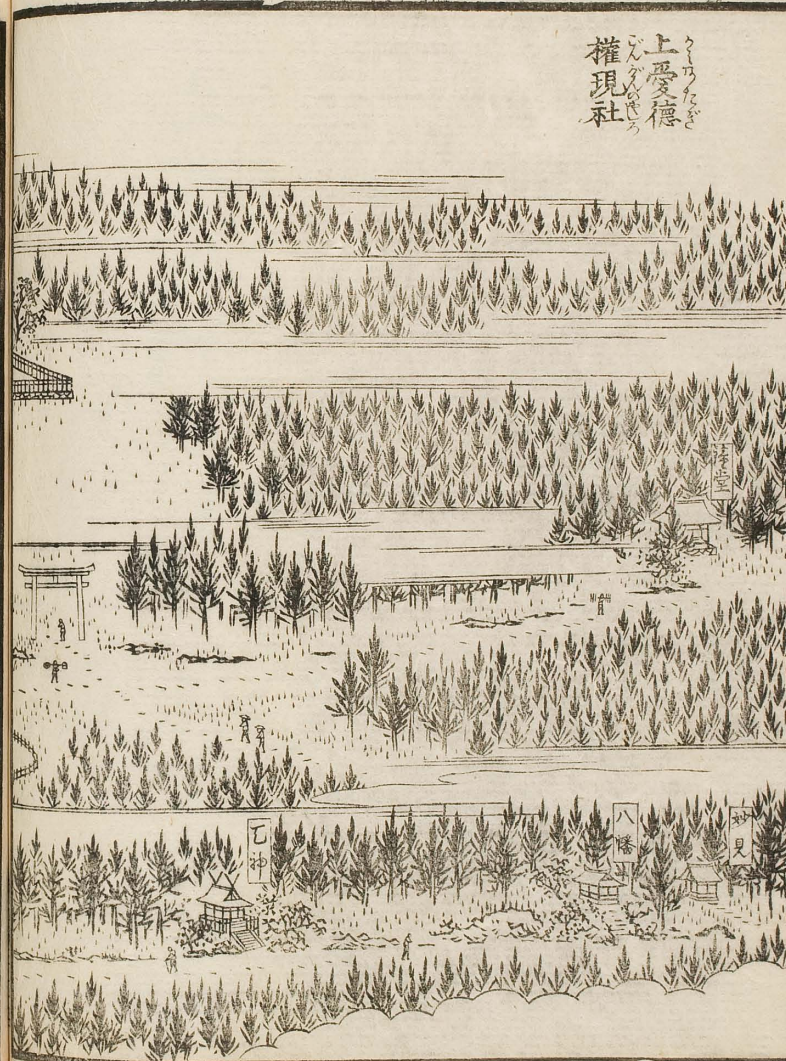
常社三坐西御前三座之宮三坐四又六の二又右一坐よりて
 然跡十二これ神を祀るといふも社の敷を以て不撓たふさとい
 へる八ヶ村の產をうぶ神かみとして深林の中をれも社殿備はれり
 知法しほうはるるもも使しの跡あとより風が如く倒れ二月十
 八日如式古風をなせり神輿かみこに先馳せんしし長刀を持ちゆく
 其その神かみ縁えりよりといふ又童子神前かみにて神舞を奏なふ
 其その謡歌も古雅こがなり日を追ふる桑名さなの掌境内てうきに充み
 満みつ流離りゅうり四方より來りて流離をいさ驚おどくも万平まんへい令し
 乃すなはちといふ林ををり

大龍

串本村より辰辰日、川流一町許に
着、隙満急流、小



上愛徳
権現社





愛徳六社大明神



上愛徳
神社
祭式

日高川天婆伊
の滝筏下り図

川の上流五滝のふて

激流の間に

流れ水石相搏

飛沫雪を

卷八

符師の？

のりき
乗下る

者一云

棹の

操

過つ時へ

志一

文
寶
上

先生實錄

瞬息の間々
懸れりと

云々

左子

へる

長

也

水

者

亦
下

己丑

2

此名

を
妻

歌

10

10

•

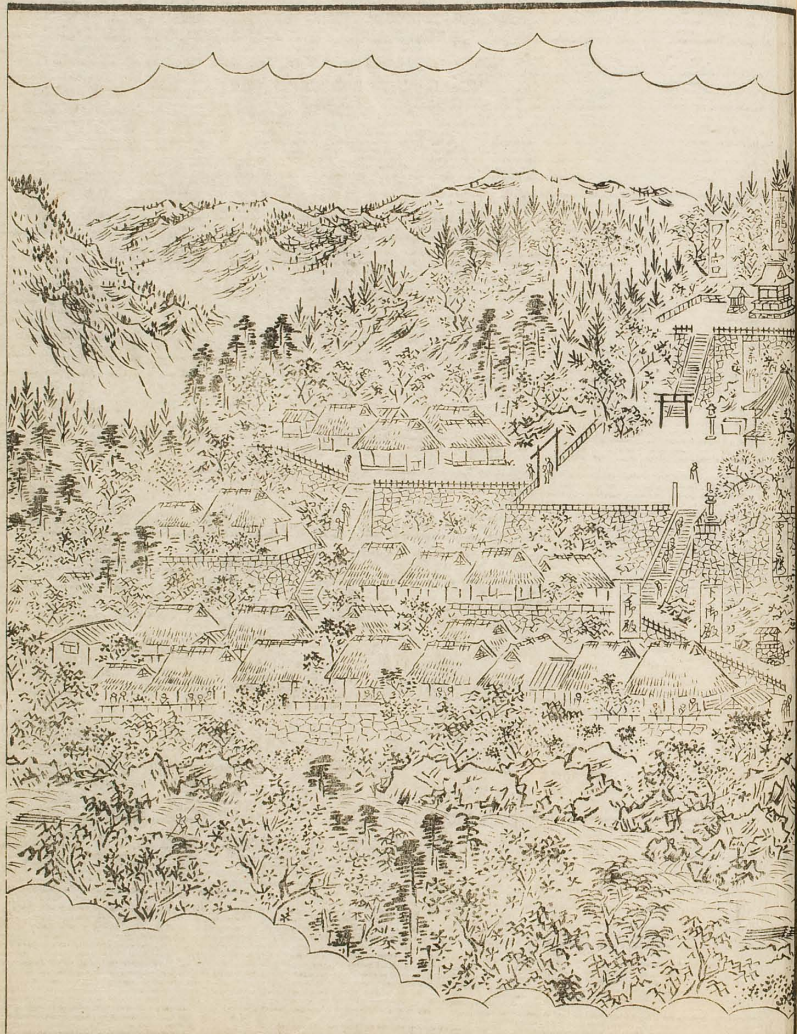
聯息の間ふ
 懸れまこ
 三べ
 莊子
 いへろ
 能
 忘
 水
 者
 おろ
 らんべ
 いそ
 此危
 を凌
 得
 や

日高川天婆伊
の滝筏下り図

川の上流より滝のふち
激流激湍の間を
流れ水石相搏
飛沫雪を
巻ふみふみ
伐師のこを
乗下る
者さび
棹の
擇むと
過つ時ハ
四肢忽ち
粉齏を
死生実ふ

龍神全圖

旅舎の名及浴室
の名詳々書きたる
面本別刻して
温泉寺に附く



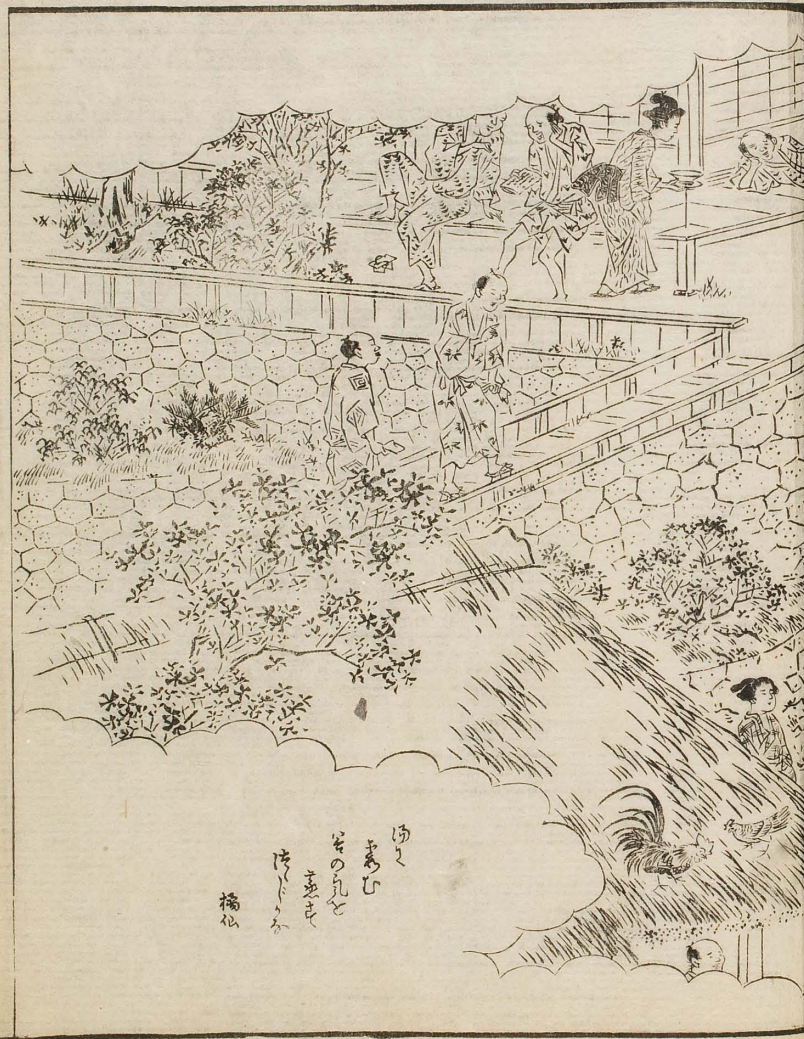
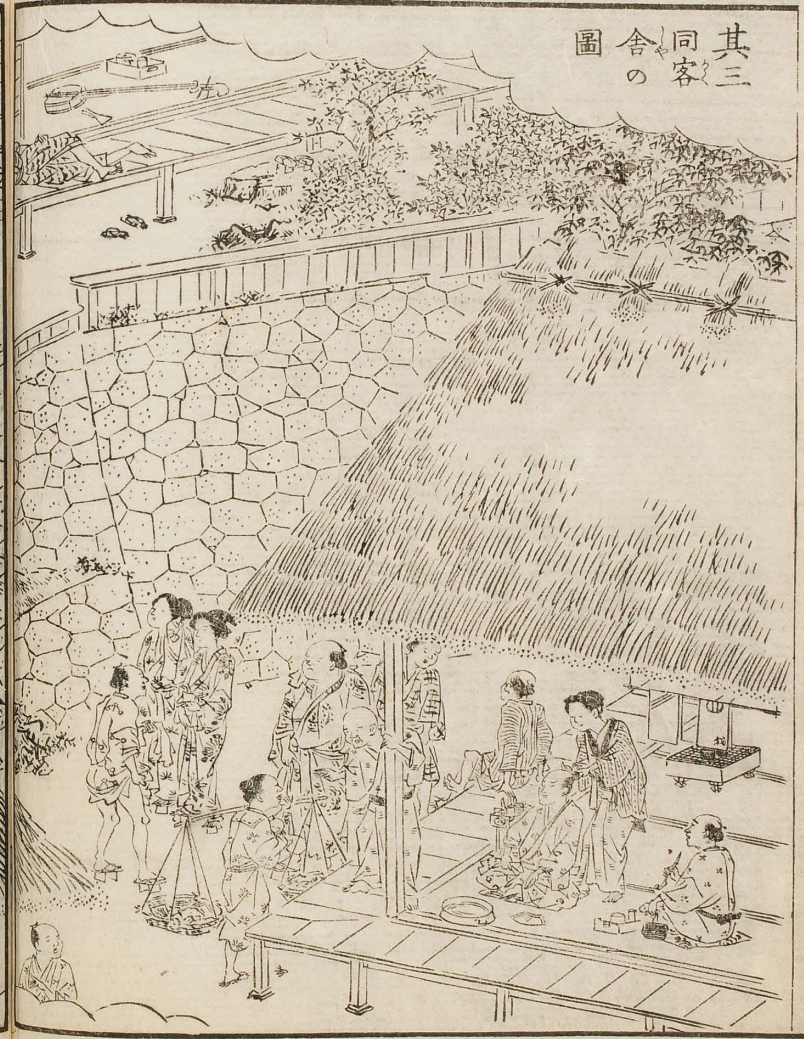
其二 同浴室の図

茶の湯の
ひんやり
くぐや
湯あいの
服目巻
木叙



狂言
山とや奴
おねえ
いそでろ
おのぼろ
と氣ろ
いそねろ
いそひで
ぬく
吞捕

其三 同客の舎圖



湯
あひ
その乳と
さあき
はくどろか
橋

るふもまゝこれをもれを招きて客人の心をとり
りるる要書畫れ風流小婦多し或は釣糸をこ
もて川邊小立ち袂袍を携へて山溪をかけるど
かたがたの奥あまのけしきとも冷しとわくの中
るれば耕とて地をく海邊小程をくれを群あま
菓をけくもいとけふ穀の價もやうきとされと南
より北より魚ひ来りてるかけけとて迫き山蔭のふ
せ屋母位ある老女らとわくこれ菓もれ或は松籠獸の
皮をけけりて出て旅人小鬻る煙の代とよきも有りたり
此酒泉のうき書みえくけふ海小女治三年十月十日の文小長光館原日未為陽治下
向紀伊國所如今月三月於此忽出家入道今日示述此由誠東事也と云々
此地言習山へ使ふれども當ふ所く小治れりていつとも受く又酒漬氏の記
を廢をとてけふ小治りて治せうを記せられもあれと要候なり人の信ふ
北陽在田郡山保田庄上河川村の所年といふ小治出といふ所の所より
これ地ふりて出て元々の頃ふりて治て功績記と云々君命けりて俗家と
違ふしあまを建せりて於此の肉親極内の百世小治ふ其地は北ふあり
まゝこれれを地を免許せらるるといふ小治を八返とも官より修送あり

南海文集龍泉紀行

泉之土甚狹居民十餘家高下其丘居焉西山為峽隱蔽日
月非停午不見星山多丁香花清香襲人又多瓜蓴居人曬
根造粉以賣溪中游魚數品鯨魚尤美有紅鱗黑斑形如魴

者俗名天魚獸則鈴羊麋鹿獺豺之類云

同詩集

嵯沸陽泉水何歲稱龍神天地以為爐陰陽以為薪靈液始
融化既清且以醇丁女慕士夫來嫁嬪于辛帝曰吁嘉汝家
道睦且親其與我藥石為台濟時臣甘露及沈滄鹵鹽與永
銀永以錫汝類孰與女之仁朱鷲祝融墟赤水天河潯丹崖
高千尺飛流懸垂紳蘭湯暖吐玉絲霧香襲人潤槁敗枯朽
生氣頓津津出非女有餘入亦非女貧既莫知厥始所終豈
有垠彼驪山之壯曾辱於唐秦醴泉甘不醉貪泉與盜鄰飲
女龍神泉足以利吾民幽僻豈居陋至寶元深珍我病既已
洗誰與浣其塵



音神邊の
村家
あて
松屋
を
新
ふる
ふ

難陀龍王社 湯谷の久小ありなれ四月
八日即湯谷を以て神とすなり
龍神といふ山を云ふなり
湯泉寺 龍神といふ山を云ふなり
を幸ふといふ湯谷を云ふなり

龍神より諸方の路次

大坂道	若山道	南部道	田辺道	日高道
殿垣内 二里	殿垣内 二里	遠井辻 三里	下柳瀬 六里	下柳瀬 六里
小森 一里	笹茶屋 三里	神野 市場まで 一里	輕井川 二里	名之内 二里
新 三里	下湯川 福井まで 三里	野上 八幡町まで 一里半	南部 二里	秋津 二里
高野大門 三里	清水 寺原まで 二里	山東 一里	田邊 一里	寄之原 二里
				天田 二里

水乞鳥 龍神にささぐるを田原の山保田のふかきカハセミ小鳥と云ふ大さく鴨の形な
れど尾羽さくは龍の尾の如くなり

川鳥 龍神にささぐるを田原の山保田のふかきカハセミ小鳥と云ふ大さく鴨の形な
れど尾羽さくは龍の尾の如くなり



どろふと
殿垣内

佛してん
枕のま
拾ふ
の
十

城が森
 樹の鼻
 六里
 六里
 六里



六里
 六里
 六里
 六里
 六里



武庫川女子大学附属図書館

04463021